

科目名	看護学概論		科目ナンバリング	N-NP BN 2-00.H N	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
			科目コード	N30001	時間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	幸山 靖子 (実務経験のある教員)			授業形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>看護学概論では、「看護とは」なにかを探求する。そのため授業では、看護の歴史の変遷、看護を説明する概念、看護理論、看護の対象や役割など看護の基礎となる知識を学び、人間が健やかに生きることを支える看護のあり方、社会の中の看護の役割を理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1. 2. 4. 5に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 看護の対象・役割・機能が説明できる。</p> <p>2. 現在の看護に至るまでの歴史の変遷について説明できる。</p> <p>3. 主な看護理論の主要概念が理解できる。</p> <p>4. 自己の看護観を人に伝えることができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	コースオリエンテーション 看護の概念 (1)		1. 科目の位置づけ、授業の概要、履修上の留意事項 2. 看護とは						講義	
第2回	看護の概念 (2)		看護の語義・定義						講義	
第3回	看護の歴史の変遷 (1)		原始古代社会における看護、宗教上の信仰に基づいた看護、職業的看護の発達、看護の専門化の歩み						講義	
第4回	看護の歴史の変遷 (2)		ナイチンゲールの看護論						グループワーク	
第5回	看護の歴史の変遷 (3)		ナイチンゲールの看護論						プレゼンテーション	
第6回	看護の役割・機能 (1)		看護における健康とは						グループワーク	
第7回	看護の役割・機能 (2)		看護における健康とは						プレゼンテーション	
第8回	看護の対象 (1)		中間テスト/看護における人間の捉え方とは						講義	
第9回	看護の対象 (2)		看護における人間の捉え方とは						講義	
第10回	看護の役割・機能 (3)		チームケア (医療) における看護の役割						講義	
第11回	看護理論の変遷 (1)		主要な看護モデルと理論						講義	
第12回	看護理論の変遷 (2)		看護理論とは						グループワーク	
第13回	看護理論の変遷 (3)		看護理論とは						プレゼンテーション	
第14回	看護における倫理		看護実践と倫理						講義	
第15回	まとめ		まとめ						講義	
評価方法及び評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2/3以上の出席者に対して、筆記試験 (80%)、レポート (20%) により評価します。 ・ レポートは、授業の進行状況に合わせて随時提出を指示します。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取りません。 									
課題等	グループワークを効果的に行うための課題を提示します。									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主題について関連する内容を事前学習してください。 ・ 週当たり3時間程度、授業外に学修を進めましょう。 									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 茂野香おる他：系統看護学講座専門分野Ⅰ基礎看護学 [1] 看護学概論 第17版, 医学書院, 2022, 978-4-260-03862-1 ・ フロレンス・ナイチンゲール：湯楨ます他訳, 看護覚え書きー看護であること・看護でないことー, 現代社, 2011, 978-4-87474-142-9 ・ パージニア・ヘンダーソン：湯楨ます, 小玉香津子訳, 看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会, 2016, 978-4-8180-1996-6 									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら学ぶ姿勢をもって授業に臨んでください。また、医療をとりまくさまざまなニュースに注意し、看護との関連について考えてみましょう。 ・ 本科目の単位修得は、「基礎看護学実習Ⅰ」を履修するための必要要件になっていることに留意してください。 									

科目名	対象論		科目ナンバリング	N-NP NI 2-35.S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N30036		15時間				
区分	看護実践科目	選択	担当者名	川村 泰子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>[授業の主旨]</p> <p>1) 病気や障害を持つ人やその家族の経験や闘病記・文献を通して、看護が対象とする人々の心理・生活、闘病上の困難・工夫、医療・医療者への期待や要望を理解し、看護者としてあるべき姿や課題を考える。2) 地域で自立した生活を送る人々の健康づくり活動の実態やきっかけ、および活動満足感を理解する。それらの活動に参加するボランティアの人々をゲストスピーカーとして招き、予防活動への理解を深める。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>・ディプロマポリシー1、2、5に関連し、カリキュラムポリシー教育課程の3に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 病気や障害を持つ人やその家族の心理、生活、闘病上の困難と工夫を理解する。</p> <p>2) 地域で自立した生活を送る人々の健康づくり活動の実態やきっかけ、および活動満足感を理解する。</p> <p>3) 看護が対象とする人々の医療や医療者への期待や要望を理解し、看護者としてあるべき姿や課題を考えることができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	オリエンテーション、授業の目的、意義、進め方		1) 看護者が対象としている人々から学ぶ、意義・目的とは 2) 病気や障害の体験と、体験している人々の特徴(事例紹介)							
第2回	闘病記・文献を読む(1)		(DVD) 「ALSの岡部さんの場合」 ・グループワークにてディスカッションする						ディスカッション グループワーク	
第3回	闘病記・文献を読む(2)		(DVD) NHK長すぎた入院(精神障害者のライフヒストリー) ・グループワークにてディスカッションする						ディスカッション グループワーク	
第4回	闘病記・文献を読む(3)		・「ぼくの命は言葉とともにある」を読み、話し合う。 ・グループワークを行い、グループ毎にプレゼンテーションする						ディスカッション グループワーク プレゼンテーション	
第5回	ゲストスピーカーの体験を聴く(1)		・就労する精神障害者のライフヒストリーと支援者の体験 ・障害を持つ当事者と支援者との対話型のミーティング						ディスカッション グループワーク プレゼンテーション	
第6回	ゲストスピーカーの体験を聴く(2)		健康推進員など、健康づくり活動に参加するボランティアの人々の話を聞く(傾聴・絵本読み聞かせ)						ディスカッション グループワーク プレゼンテーション	
第7回	グループワーク		闘病記・文献での学び、ゲストによる体験を聴くことで気づいたこと、学んだこと、考えたことを話し合い発表の準備をする。						ディスカッション グループワーク プレゼンテーション	
第8回	全体討議(発表)		看護学生としての学び・気づきについて、グループで話し合ったことを発表し、全体でディスカッションを行う						ディスカッション グループワーク プレゼンテーション	
評価方法及び評価基準	<p>1) 2/3以上の出席者につき、出席状況、リフレクションペーパー、定期試験等を組み合わせて総合的に評価する。</p> <p>2) リフレクションペーパー：全ての授業終了後に提出することで、5点を加算する。</p> <p>3) 定期試験：試験結果は満点を95%として評価する。</p>									
課題等	レポートおよび感想シートなどは、返却しない。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、読んでみてください。読むことで、理解が深まり、ディカッションへの参加も容易になる。									
教材教科書参考書	<p>・教科書：「ぼくの命は言葉とともにある」、福島智、致知出版社、ISBN978-4-8009-1072-1</p> <p>・授業の中で、適宜図書を紹介します。</p>									
留意点	<p>1) 授業で紹介された文献などの自己学習による積み重ねが重要である。</p> <p>2) 授業で学んだことを、日頃の学習及び社会活動に活かす。</p> <p>3) 社会の動きや出来事など、日頃のニュースにも関心を持ち、情報を的確に把握することが不可欠である。</p>									

科目名	医療・看護倫理		科目ナンバリング	N-NP BN 2-01.H N	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N30002	時間	15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	五十嵐 靖彦				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	無								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 専門職としての看護業務を、適切かつ有効に遂行するための規範となる心構えや行動原理について、倫理的視点から考察する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシー1に関連し、カリキュラムポリシー3と関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 看護とは人間関係一般の中でも、特殊・微妙な職域であることを理解できる。 2) その業務を全うする上では、特に倫理的配慮が大切であることを理解できる。 3) その倫理的配慮の中では、なによりも生命の尊厳、人権の尊重という価値観を深く身に付ける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	倫理とは			倫理の語義とそれを研究する倫理学についての説明						
第2回	倫理一般と領域倫理			社会人として心得るべき一般倫理と職域ごとの特殊化される倫理について						
第3回	医の倫理について			医療に関連した職域分野の種々の倫理綱領について						
第4回	看護倫理の概念と歴史			ナイチンゲールから現代までの看護倫理の歩み						
第5回	看護関連のキーワードの解説			人間の尊厳、インフォームド・コンセント、アドボカシー等々						
第6回	同上			続講						
第7回	看護研究と倫理的配慮			研究倫理を審査する倫理委員会について						
第8回	事例研究			こういう場合どう判断し、どう行動すればよいか						
評価方法及び評価基準	平常点（出席状況や授業中の受け答え 10%）と期末テストの成績（90%）の合算。									
課題等	なし									
事前事後学修	なし									
教材教科書参考書	教科書は使用しない。毎回資料を配付する。 参考文献は以下 五十嵐靖彦著『現代社会と倫理』花伝社 2019 石井トク編『看護倫理』学研プラス 2014、小西恵美子他編『看護倫理』南江堂 2012 島崎玲子他編『看護学概論』4版 医歯薬出版 2012 盛永審一郎他編『看護学生のための医療倫理』丸善出版 2012									
留意点	毎回授業の終わりに、次回の授業に関連したテーマや文献について当たっておくようにと指示する。配付される資料はかなりの量になるはずなので、散失しないよう整理し保存すること。									

科目名	看護過程論		科目ナンバリング	N-NP BN 2-02. H N	単位数	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N30003	時間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	幸山 靖子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 看護援助の目的を理解し、看護の対象のニーズに応じた問題を解決するために、科学的思考、問題解決的思考を基に看護の過程における問題解決の方法を習得する。看護を展開するための基礎的知識を用いてクリティカルシンキング能力を養う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2.3.4.5に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 看護過程の概念、概要、意義を理解できる。 2. 看護過程におけるアセスメント、看護診断、看護目標、看護計画、実施、評価を理解できる。 3. 紙上事例を用いた看護過程を展開し、看護計画を立案できる。 4. 看護実践における記録の必要性・方法を理解できる。 5. 看護過程の学習を通して、看護における科学的・論理的思考の必要性を理解できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション 看護過程の概要と構成要素 問題解決過程と看護過程			1. 科目の位置づけ、授業の概要、履修上の留意事項 2. 看護過程の概要と構成要素 3. 問題解決過程と看護過程				講義		
第2回	看護過程を展開する際に基盤となる考え方 看護アセスメントの枠組み			1. 看護過程の段階（ステップ） 2. 看護アセスメントの枠組み 3. 看護過程におけるアセスメント（情報収集、解釈/統合）				講義		
第3回	ゴードンの機能的健康パターン			1. ゴードンの機能的健康パターン 2. ペーパーパーシェントの説明				講義/グループワーク		
第4回	アセスメントー1			アセスメント（演習ー1）：ペーパーパーシェントのアセスメント				グループワーク		
第5回	アセスメントー2			アセスメント（演習ー2）：ペーパーパーシェントのアセスメント				グループワーク		
第6回	看護上の問題の明確化と看護診断			1. アセスメントから看護診断へ 2. NANDA-I看護診断分類Ⅱ 3. 共同問題				講義		
第7回	アセスメントー3			アセスメント（演習ー3）：ペーパーパーシェントのアセスメント				グループワーク		
第8回	全体像（関連図）とは			1. 全体像（関連図）とは 2. 全体像（関連図）作成について 3. 看護診断、優度順位の決定				講義		
第9回	全体像（関連図）とは			全体像（演習ー1）				講義/グループワーク		
第10回	看護診断・優先順位の決定			全体像（演習ー2）：看護診断、優先順位の決定				グループワーク		
第11回	看護計画			1. 看護計画とは 2. 看護計画の構成要素				講義		
第12回	看護計画ー1			看護計画（演習ー1）：ペーパーパーシェントの看護計画				講義/グループワーク		
第13回	看護計画ー2			看護計画（演習ー2）：ペーパーパーシェントの看護計画				グループワーク		
第14回	看護記録			1. 看護記録の意義および目的、その種類 2. 看護記録における法的規制 3. 看護記録のあり方（秘密保持や責任の所在、保管上の留意事項）				講義		
第15回	発表会			事例の看護計画について				プレゼンテーション		
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者に対して、筆記試験（80%）、レポート（20%：4回分）により評価します。レポートは授業の進行状況に合わせて随時提出を指示します。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取りません。									
課題等	グループワークを効果的に行うための課題を提示します。									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> 事例を提示し、事前学習課題を配布します。 週当たり3時間程度、授業外に自ら学修を進めましょう。 									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> 任和子編著：実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド、照林社、2016。ISBN978-4-7965-2344-8 T.ヘザー・ハードマン：上鶴重美訳、NANDA-I看護診断 定義と分類2021-2023、医学書院、2021。ISBN978-4-260-04628-2 03443-2 その他、適宜資料配布、参考書を紹介します。 									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> グループワークは学生が主体となって進めますので、そのための準備をして臨みましょう。 関連科目、特に「人体の構造」「人体の機能」「看護学概論」「基礎看護技術論」のテキスト、その他の参考書や資料を持参してください。 「基礎看護学実習Ⅱ」、履修要件の科目であることに注意しましょう。 									

科目名	基礎看護技術論		科目ナンバリング	N-NP BN 2-03. H N	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N30004	時間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	幸山 靖子、阿部 智美、松坂朋佳 (実務経験のある教員)				授業 形態	演習	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>看護の対象の日常生活を整え、より健康な状態にするための基本的な技術について、援助技術ひとつひとつの基礎となる要素とその根拠を学習する。看護の対象との相互関係において看護を実践できる能力の基礎を養う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの4に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間を対象とする技術の構成要素および看護技術とは何かを理解する。 2. 看護行為に共通する援助技術の意義と方法について、基礎的知識を理解する。 3. 看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を習得する。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション 看護技術とは何か			オリエンテーション 看護技術の特徴と構成				講義(幸山)		
第2回	人間関係を成立・発展させるための技術			コミュニケーションの概念、コミュニケーションの基本原理、 コミュニケーションを成立させる要素、対人関係の振り返り				講義(阿部)		
第3回	快適な環境をつくる技術			看護における環境の意義と病床の環境、環境のアセスメント				講義(松坂)		
第4回	快適な環境をつくる技術 (1)			環境整備、ベッドメイキング				演習 グループワーク		
第5回	快適な環境をつくる技術 (2)			環境整備、ベッドメイキング				演習 グループワーク		
第6回	安全を守る技術			医療安全の意義と確保、主な医療事故とその予防策				幸山		
第7回	休息・睡眠を促す技術			休息・睡眠の意義、休息・睡眠の生理学的メカニズム、休息・睡眠の ニーズに関するアセスメント				幸山		
第8回	まとめ			授業の総括(中間)				幸山		
第9回	活動・運動を支援する技術			移動と移送(車椅子、ストレッチャー)				阿部		
第10回	活動・運動を支援する技術 (1)			移動と移送(車椅子、ストレッチャー)				演習 グループワーク		
第11回	活動・運動を支援する技術 (2)			移動と移送(車椅子、ストレッチャー)				演習 グループワーク		
第12回	食事・栄養摂取を促す技術 (1)			食事・栄養の意義、食事に関する生理学的メカニズム 栄養状態のアセスメント				阿部		
第13回	食事・栄養摂取を促す技術 (2)			食事・栄養の意義、食事に関する生理学的メカニズム 栄養状態のアセスメント				ゲストスピーカー		
第14回	食事・栄養摂取を促す技術			食事・栄養の意義、食事に関する生理学的メカニズム 栄養状態のアセスメント、食事・栄養に関する援助方法				演習		
第15回	まとめ			授業・演習の総括				幸山、阿部		
評価方法 及び 評価 基準	<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席者に対して、定期試験(90%)、受講態度・レポート(10%)により評価します。 ・レポートは授業の進行状況に合わせて随時提出を指示します。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取りません。 									
課題等	グループワークを効果的に行うための課題を提示します。									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・講義前には事前学習課題を配布します。演習前の事前学習、演習後の振り返りを提出しましょう。 ・週当たり3時間程度、授業外に学修を進めましょう。 									
教材 教科書 参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ、メディカ出版、2022。978-4-8404-7536-5 ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ、メディカ出版、2022。978-4-8404-7537-2 ・根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版、医学書院、2021。978-4-260-04790-6 その他、適宜資料配布、参考書を紹介します。 									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の授業科目、特に「人体の構造Ⅰ」「人体の機能Ⅰ」を復習し、実践方法の根拠として関連させて学習するようにしてください。 ・自己学習や看護技術の反復練習に励むことが必要です。 ・「基礎看護学実習Ⅰ」の履修要件の科目であることに注意しましょう。 									

科目名	基礎看護技術演習Ⅰ		科目ナンバリング	N-NP BN 2-04. H N	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N30005	時間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	阿部 智美、幸山 靖子、松坂 朋佳 (実務経験のある教員)				授業 形態	演習	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 基礎看護技術論を基に、看護の対象の日常生活を整え、より健康な状態にするための基本的な技術について、援助技術ひとつひとつの基礎となる要素とその根拠を学習する。演習では患者・看護師のロールプレイを通して、看護における人間関係のあり方も理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの4に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連する</p>									
到達 目標	<p>1. 対象者の日常生活を援助する援助技術の基礎となる要素とその根拠を理解する。 2. 看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を習得する。 3. 看護職者として必要な態度を身につける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	感染予防を推進する技術			感染予防の意義、感染症を成立させる要素と成立過程				阿部		
第2回	感染予防を推進する技術			手洗い方法：スクラブ法、ラビング法				阿部・松坂・幸山 演習 グループワーク		
第3回	安楽かつ快適さを確保する技術			安楽な体位、ボディメカニクス、体位変換				阿部		
第4回	安楽かつ快適さを確保する技術			体位変換とボディメカニクス				阿部・松坂・幸山 演習 グループワーク		
第5回	ヘルスアセスメント バイタルサインの測定			バイタルサインとは 意識、呼吸				阿部		
第6回	ヘルスアセスメント バイタルサインの測定			体温、脈拍、血圧				阿部		
第7回	検査・治療を安全かつ正確に行う技術			結果の解釈と報告、身体計測				阿部		
第8回	ヘルスアセスメント バイタルサインの測定			バイタルサインの測定方法				阿部・松坂・幸山 演習 グループワーク		
第9回	ヘルスアセスメント バイタルサインの測定			バイタルサインの測定方法				阿部・松坂・幸山 演習 グループワーク		
第10回	技術チェック									
第11回	技術チェック									
第12回	まとめ			授業の総括（中間）				阿部		
第13回	ヘルスアセスメント バイタルサインの測定			バイタルサインの測定方法				阿部・松坂・幸山 演習 グループワーク		
第14回	検査・治療を安全かつ正確に行う技術			身体計測				阿部・松坂・幸山 演習 グループワーク		
第15回	まとめ			授業の総括				阿部		
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席者に対して、筆記試験（45%）、実技試験（40%）、レポート（15% 5回分）により評価する。レポートは授業の進行状況に合わせて随時提出を指示する。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取らない。									
課題等	課題にはコメントを追加し、返却する。									
事前事後学修	講義前には事前学習課題を配布する。演習前の事前学習、演習後の振り返りを提出する。週当たり1.5時間程度の授業外の学修が必要である。									
教材 教科書 参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ，メディカ出版，2022. 978-4-8404-7536-5 ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ，メディカ出版，2022. 978-4-8404-7537-2 ・根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版，医学書院，2021. 978-4-260-04790-6 その他、適宜資料配布、参考書を紹介する 									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の授業科目、特に「人体の構造」「人体の機能」を復習し、実践方法の根拠として関連させて学習すること。 ・自己学習や看護技術の反復練習に励むことが必要である。 ・Webを利用した講義を行い、事前学習においてもWebを利用して動画視聴等を行う。 ・「基礎看護学実習Ⅰ」の履修要件の科目であることに注意すること。 									

科目名	基礎看護技術演習Ⅱ		科目ナンバリング	N-NP BN 2-05. H N	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N30037	時間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	阿部 智美、幸山 靖子、松坂 朋佳 (実務経験のある教員)				授業 形態	演習	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>基礎看護技術論・基礎看護技術演習Ⅰを基礎に、看護の対象の日常生活を整え、より健康的な状態にするための基本的な技術について、援助技術ひとつひとつの基礎となる要素とその根拠を学習する。清拭・寝衣交換、洗髪・部分浴、排泄の援助などの援助技術を習得する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの4に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している</p>									
到達目標	<p>1. 対象者の日常生活を援助する援助技術の基礎となる要素とその根拠を理解する。</p> <p>2. 看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を習得する。</p> <p>3. 看護職者として必要な態度を身につける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	身体の清潔を援助する技術			清潔の意義 皮膚・粘膜の生理的メカニズムとケア 清潔ニーズのアセスメント				阿部		
第2回	身体の清潔を援助する技術			演習：就床患者の寝衣交換				阿部・松坂・幸山 演習 グループワーク		
第3回	身体の清潔を援助する技術			清潔の援助方法				阿部		
第4回	身体の清潔を援助する技術			演習：就床患者の全身清拭 寝衣交換①				阿部・松坂・幸山 演習 グループワーク		
第5回	身体の清潔を援助する技術			演習：就床患者の全身清拭 寝衣交換②				阿部・松坂・幸山 演習 グループワーク		
第6回	身体の清潔を援助する技術			清潔の援助方法				阿部		
第7回	身体の清潔を援助する技術			演習：就床患者の洗髪①				阿部・松坂・幸山 演習 グループワーク		
第8回	身体の清潔を援助する技術			演習：就床患者の洗髪②				阿部・松坂・幸山 演習 グループワーク		
第9回	身体の清潔を援助する技術			演習：部分浴（足浴）				阿部・松坂・幸山 演習 グループワーク		
第10回	感染予防を推進する技術			感染予防をするためのプロセス				松坂		
第11回	感染予防を推進する技術			演習：無菌操作（滅菌手袋の着脱 滅菌物の取り扱い）				松坂・阿部・幸山 演習 グループワーク		
第12回	排泄を促す技術			排尿・排便の意義と生理学的メカニズム 排尿・排便のニーズのアセスメント				阿部		
第13回	排泄を促す技術			排尿・排便の援助				阿部		
第14回	排泄を促す技術			演習：導尿				阿部・松坂・幸山 演習 グループワーク		
第15回	排泄を促す技術			演習：浣腸				阿部・松坂・幸山 演習 グループワーク		
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者に対して、筆記試験（45%）、実技試験（40%）、レポート（15% 5回分）により評価する。レポートは授業の進行状況に合わせて随時提出を指示する。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取らない。									
課題等	課題にはコメントを追加し、返却する。									
事前事後学修	講義前には事前学習課題を配布する。演習前の事前学習、演習後の振り返りを提出する。週当たり1.5時間程度の授業外の学修が必要である。									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ，メディカ出版，2022. 978-4-8404-7536-5 ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ，メディカ出版，2022. 978-4-8404-7537-2 ・根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版，医学書院，2021. 978-4-260-04790-6 その他、適宜資料配布、参考書を紹介する 									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の授業科目、特に「人体の構造ⅠⅡ」「人体の機能ⅠⅡ」を復習し、実践方法の根拠として関連させて学習すること。 ・自己学習や看護技術の反復練習に励む必要がある。 ・Webを利用した講義を行い、事前学習においてもWebを利用して動画視聴等を行う。 ・「基礎看護学実習Ⅰ」の履修要件の科目であることに注意すること。 									

科目名	基礎看護技術演習Ⅲ		科目ナンバリング	N-NP BN 2-06. H N	単位数	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N30038	時間	30時間				
区分	看護実践科目 アクティブラーニング	必修 有	担当者名	阿部 智美、幸山 靖子、松坂 朋佳 (実務経験のある教員)			授業 形態	演習	複数	
授業の 概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>基礎看護技術論・基礎看護技術演習ⅠⅡを基礎に、主に治療を受けている患者に治療・処置を安全かつ安楽に行う援助方法を学ぶ。与薬、酸素療法などの基本的治療行為の援助技術について習得する。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの4に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している</p>									
到達 目標	<p>1. 生命活動を支える技術、治療・処置に伴う援助技術の意義と方法について、基礎的知識を理解する。</p> <p>2. 治療・処置を受ける対象者の心身の状態を理解し、援助方法を習得する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	検査・治療を安全かつ正確に行う技術			検査とは 検査の援助 治療・処置				阿部		
第2回	検査・治療を安全かつ正確に行う技術			演習：静脈血採血①				阿部・松坂・幸山 演習 グループワーク		
第3回	検査・治療を安全かつ正確に行う技術			演習：静脈血採血②				阿部・松坂・幸山 演習 グループワーク		
第4回	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術			与薬とは 薬物療法と看護 与薬のための基礎知識				阿部		
第5回	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術			与薬のための援助技術 注射のための援助技術				阿部		
第6回	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術			演習：皮下・筋肉内注射①				阿部・松坂・幸山 演習 グループワーク		
第7回	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術			演習：皮下・筋肉内注射②				阿部・松坂・幸山 演習 グループワーク		
第8回	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術			輸血のための援助技術 与薬における安全管理				阿部		
第9回	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術			演習：点滴静脈内注射①				阿部・松坂・幸山 演習 グループワーク		
第10回	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術			演習：点滴静脈内注射②				阿部・松坂・幸山 演習 グループワーク		
第11回	呼吸を楽にする技術			呼吸とは 呼吸の生理学的メカニズム 呼吸のニーズに関するアセスメント				松坂		
第12回	呼吸を楽にする技術			呼吸を楽にする援助				松坂		
第13回	呼吸を楽にする技術			演習：酸素吸入療法 一時的吸引				松坂・阿部・幸山 演習 グループワーク		
第14回	皮膚・創傷を管理する技術			皮膚・創傷を管理するための基礎知識 創傷の分類と治癒過程 創傷の管理 褥瘡の管理				阿部		
第15回	体温を調節する技術			体温調節 電法				阿部		
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席者に対して、筆記試験(45%)、実技試験(40%)、レポート(15% 5回分)により評価する。レポートは授業の進行状況に合わせて随時提出を指示する。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取らない。									
課題等	課題にはコメントを追加し、返却する。									
事前事 後学修	講義前には事前学習課題を配布する。演習前の事前学習、演習後の振り返りを提出する。週当たり1.5時間程度の授業外の学修が必要である。									
教材 教科書 参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学(2) 基礎看護技術Ⅰ, メディカ出版, 2022. 978-4-8404-7536-5 ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ, メディカ出版, 2022. 978-4-8404-7537-2 ・根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版, 医学書院, 2021. 978-4-260-04790-6 その他、適宜資料配布、参考書を紹介する 									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の授業科目、特に「人体の構造Ⅱ」「人体の機能Ⅱ」を復習し、実践方法の根拠として関連させて学習すること。 ・自己学習や看護技術の反復練習に励むことが必要である。 ・Webを利用した講義を行い、事前学習においてもWebを利用して動画視聴等を行う。 									

科目名	ヘルスアセスメント		科目ナンバリング	N-NP BN 2-07.H N	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
	科目コード			N30007	時間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	幸山靖子、阿部智美、宇田宗弘 田中真実、松坂朋佳 (実務経験のある教員も含む)			授業 形態	講義	オムニバス	
	アクティブラーニング	無								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>人体の構造や機能、基礎看護技術論、基礎看護技術演習Ⅰで学んだ内容などをふまえ、フィジカルイグザミネーションの基本的技術を学習する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの4、5に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護におけるヘルスアセスメントの概念について理解できる。 2. 対象者の主観的・客観的情報を収集するための問診や基本的なフィジカルイグザミネーションを実施する方法を明確にすることができる。 3. 事例を用いて、対象者の身体的および心理・社会的側面から情報を系統的に収集し、対象者の健康状態、生活状況を判断できるための、ヘルスアセスメントの方法について考えることができる。 4. ヘルスアセスメントを行った内容から看護の必要性を述べることができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	コースオリエンテーション 看護におけるヘルスアセスメント			看護におけるヘルスアセスメントとは フィジカルアセスメントとは				講義(幸山)		
第2回	フィジカルアセスメントの基本技術			フィジカルイグザミネーションの基本技術 面接・問診、観察からのアセスメント				講義/演習(グループワーク) (幸山)		
第3回	人体の解剖			人体の部位・器官の位置・方向の確認				講義(田中)		
第4回	呼吸器系・循環器系のヘルスアセスメント			心臓・血管系のヘルスアセスメント				講義(宇田)		
第5回	呼吸器系のヘルスアセスメント			呼吸器系のヘルスアセスメント				講義(幸山)		
第6回	呼吸器系のヘルスアセスメント			呼吸器系のヘルスアセスメント				演習/プレゼンテーション (幸山他)		
第7回	心臓・血管系のヘルスアセスメント			心臓・血管系のヘルスアセスメント				講義(松坂)		
第8回	心臓・血管系のヘルスアセスメント			心臓・血管系のヘルスアセスメント				演習/プレゼンテーション (松坂他)		
第9回	消化器系のヘルスアセスメント			消化器系のヘルスアセスメント				講義(宇田)		
第10回	消化器系のヘルスアセスメント			消化器系のヘルスアセスメント				講義(阿部)		
第11回	消化器系のヘルスアセスメント			消化器系のヘルスアセスメント				演習/プレゼンテーション (阿部他)		
第12回	筋・骨格系・神経系のヘルスアセスメント			筋・骨格系・神経系のヘルスアセスメント				講義(ゲストスピーカー)		
第13回	筋・骨格系・神経系のヘルスアセスメント			筋・骨格系・神経系のヘルスアセスメント				講義(ゲストスピーカー)		
第14回	筋・骨格系・神経系のヘルスアセスメント			筋・骨格系・神経系のヘルスアセスメント				演習/プレゼンテーション (松坂他)		
第15回	まとめ			授業の総括				講義/演習		
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者に対して、定期試験(80%)、レポート(20%:4回分)により評価します。 レポートは授業の進行状況に合わせて随時提出を指示します。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取りません。									
課題等	課題にはコメントを追加し、返却します。									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習課題を配布します。 ・週当たり3時間程度、授業外に学修を進めましょう。 									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能①、解剖生理学(第5版)、武田裕子・林正健二 編、MCメディカ出版、ISBN 978-4-8404-7831-1 ・ぜんぶわかる人体解剖図、成美堂、坂井建雄、橋本尚詞、ISBN:978-4-415-30619-3 その他、適宜資料配布、参考書を紹介します。 									
留意点	既習の授業科目、特に「人体の構造Ⅰ」「人体の機能Ⅰ」を復習し、実践方法の根拠として関連させて学習しましょう。									

科目名	地域包括ケアシステム論		科目ナンバリング	N-NP NI 2-42. H N	単位数 時 間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N30059		30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	中尾八重子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要	<p>[授業の主旨] 住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるような地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）について学ぶ。また、地域のケアシステムの現状と課題を理解し、看護職が果たす役割を考える。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシー1・2・3に関連し、カリキュラムポリシー教育方法1・3に関連する</p>									
到達 目標	<p>1. 地域包括ケアシステムの目指しているものについて考えることができる。 2. ライフスタイル、健康レベルに応じた地域のサービスについて理解できる。 3. 地域で生活する人々の支援にかかわる専門職の役割について理解できる。 4. 地域包括ケアの取り組みの実際を理解できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容（授業時間外の学修を含む）						備 考	
1	地域包括ケアとは		地域包括ケアシステムの目的と意義							
2	ケアシステムと社会資源		ケアシステムと社会資源を関連して理解する							
3	演習（1）：高齢者保健の社会資源		グループワーク						グループワーク ディベート プレゼンテーション	
4	演習（2）：母子保健の社会資源		グループワーク						グループワーク ディベート プレゼンテーション	
5	高齢者と地域包括ケアシステム（1）		地域におけるケアシステムの現状と課題							
6	高齢者と地域包括ケアシステム（2）		高齢者を対象としたケアシステムの背景							
7	高齢者と地域包括ケアシステム（3）		地域包括ケアと介護保険							
8	母子保健と地域包括ケアシステム（1）		母子保健システムの現状と課題						グループワーク プレゼンテーション	
9	母子保健と地域包括ケアシステム（2）		母子を対象としたケアシステム						グループワーク プレゼンテーション	
10	多職種連携の意義と方法（1）		地域包括ケアと多職種連携							
11	多職種連携の意義と方法（2）		多職種の専門性の理解							
12	システムの構築と地域ケア会議		地域ケア会議の意義と方法							
13	演習（3）：ケア会議の実際		グループワーク：ケア会議の役割機能とは						グループワーク ディベート プレゼンテーション	
14	演習（4）：多職種の理解		グループワーク：地域で支援にかかわる多職種						グループワーク ディベート プレゼンテーション	
15	地域包括ケアの役割		地域包括ケアにおける自助・互助・共助・公助とは						グループワーク ディベート プレゼンテーション	
評価 方法 及び 評価 基準	<p>1) 2/3以上の出席者につき、出席状況、リフレクションペーパー、定期試験等を組み合わせて総合的に評価する。 2) リフレクションペーパーは、全ての授業終了後に提出することで5%を加算する。 3) 定期試験は、試験結果を95%として評価する。</p>									
課題等	感想シートなどは、返却しない。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、読むことを勧める。									
教材 教科書 参考書	教科書：「地域包括ケアシステムの基礎的理解と実践」 編著 関永 信子 翔雲社 2021年 ISBN 978-4-910135-00-7									
留意点	<p>1) 授業で紹介された文献などは、自己学習が重要である。 2) 授業で学んだことを、日頃の学習及び社会活動に活かすことが大切である。 3) ニュース等を毎日視聴し、社会で起きていることに興味を持つことが不可欠である。 4) コロナ関連のニュースは、必ず視聴し、暮らしの場でどのようなことが起きているのかを把握する。</p>									

科目名	在宅療養を支える看護		科目ナンバリング	N-NP NI 2-60. H N	単位数	2単位	対象学年	2年	開講学期	後期
			科目コード	N30060	時間	60時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	高田 まり子、對馬 明美 (実務経験のある教員)			授業形態	演習	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	〔授業の主旨〕 在宅看護の変遷と社会背景を踏まえ、在宅療養の場、療養者と家族に応じた看護活動の現状や課題を学修する。さらに、家族看護的なアプローチ、在宅ケアマネジメント、訪問看護制度、退院支援・退院調整、在宅看護過程、医療的ケア・安全管理、多職種連携など事例展開を含め学修する。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2・3・4・5・6、カリキュラムポリシーの3に関連している。									
到達目標	1. 在宅看護の変遷と社会背景を知り、在宅看護の現状を理解する。 2. 在宅療養の場と療養者・家族の特徴と課題を理解する。 3. 在宅療養者を含む家族への家族看護的なアプローチについて理解する。 4. 在宅療養者・家族を支援する訪問看護制度と看護活動を理解する。 5. 在宅ケアマネジメント、退院支援・退院調整について理解する。 6. 事例を通し、在宅看護過程を展開し、医療的ケア・安全管理、多職種連携などを含む支援の実際を理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	リエンション、病院から在宅へ繋ぐ看護	講義の概要、学習ポートフォリオの意義と内容、病院と在宅の継続看護	DVD学修	第16回	在宅ターミナル期の看護(1)	在宅ターミナル期の対象者・条件・緩和ケア、意思決定の支援	DVD学修			
第2回	在宅看護の変遷と現状	日本の在宅看護・在宅看護教育の変遷、社会背景・社会制度との関連		第17回	在宅ターミナル期の看護(2)	在宅における看取りのケア、家族へのグリーフケア	ディスカッション含む			
第3回	在宅看護の場と対象	法制度・ライフサイクル・健康・障害レベル・疾患から見た対象者と生活の場		第18回	訪問看護の在宅看護過程の展開方法	訪問看護計画に必要な情報の整理・アセスメント・目標・計画・評価の基準				
第4回	在宅ケアにおける在宅看護の特徴(1)	在宅ケアと在宅看護の概念、地域包括ケアシステムに於ける在宅看護		第19回	中間のまとめ・演習のオリエンテーション	客観テスト、グループ演習の概要				
第5回	在宅ケアにおける在宅看護の特徴(2)	在宅看護の倫理と基本理念、在宅療養の成立要因、生活者としての特徴	DVD学修	第20回	在宅で療養する様々な対象者・家族の看護	課題の8事例中1事例の情報の整理・アセスメント・看護計画を立案する	グループ演習			
第6回	在宅療養者と家族の支援(1)	在宅療養の場における家族の捉え方、家族の介護力のアセスメントと調整		第21回	在宅で療養する様々な対象者・家族の看護	課題の8事例中1事例の情報の整理・アセスメント・看護計画を立案する	グループ演習			
第7回	在宅療養者と家族の支援(2)	家族関係の調整、ケア方法の指導、家族介護者の健康、レスパイトケア		第22回	在宅で療養する様々な対象者・家族の看護	課題の8事例中1事例の情報の整理・アセスメント・看護計画を立案する	グループ演習			
第8回	療養の場の移行に伴う看護	医療機関における入退院時の連携、医療施設や介護施設との連携		第23回	在宅で療養する様々な対象者・家族の看護	課題の8事例中1事例の情報の整理・アセスメント・看護計画を立案する	グループ演習			
第9回	法制度から見た訪問看護の対象者とサービス	介護保険法・健康保険法・高齢者の医療の確保に関する法律、難病法		第24回	在宅で療養する様々な対象者・家族の看護	課題の8事例中1事例の情報の整理・アセスメント・看護計画を立案する	グループ演習			
第10回	訪問看護の特徴と訪問看護ステーションの機能	訪問看護ステーションの設置・管理・運営基準、訪問看護サービスの流れ・内容		第25回	在宅で療養する様々な対象者・家族の看護	課題の8事例中1事例の情報の整理・アセスメント・看護計画を立案(リハール)	プレロールプレイ			
第11回	訪問のマナー・訪問看護に関係する記録類	訪問時のマナーの実際、訪問看護に必要な記録(介護保険・医療保険)	DVD学修	第26回	在宅で療養する様々な対象者・家族の看護	課題の8事例中1事例の情報の整理・アセスメント・看護計画を立案(リハール)	プレロールプレイ			
第12回	在宅看護におけるケアマネジメント・ケアマネジメント	介護保険制度におけるケアマネジメント、ケアマネジメントの過程と実践		第27回	在宅で療養する様々な対象者・家族の看護	課題の8事例中1事例の看護計画の1場面を実施(プレゼンテーション)意見交換	プレゼンテーション			
第13回	在宅療養における安全と健康危機管理(1)	在宅看護の危機管理・安全管理、災害時の療養者・家族の健康管理	DVD学修	第28回	在宅で療養する様々な対象者・家族の看護	課題の8事例中1事例の看護計画の1場面を実施(プレゼンテーション)意見交換	プレゼンテーション			
第14回	在宅療養における安全と健康危機管理(2)	人工呼吸器装着の在宅療養者・家族の災害時の看護		第29回	在宅で療養する様々な対象者・家族の看護	課題の8事例中1事例の看護計画の1場面を実施(プレゼンテーション)意見交換	プレゼンテーション			
第15回	在宅の援助技術	胃瘻栄養法・排便・在宅酸素療法中療養者・家族の在宅における支援のポイント	DVD学修	第30回	まとめ	グループ・自己評価のまとめ、演習及び客観テストの振り返り				
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者につき、客観テスト(60%)、看護計画の妥当性(30%)：情報の整理・アセスメント・看護計画の妥当性。授業態度：演習への参加状況(意見・発言・学習物)を演習のルーブリック評価基準に照らし評価。学習ポートフォリオ：課題を適切に調べ整理しているか、学習の成果が時系列で整理されているか、自己成長報告書での自己評価の妥当性など含む。(10%)									
課題等	各グループワーク提出資料の提出期限は厳守すること。まとめを含む詳細の日時は初回講義日に提示する。									
事前事後学修	グループワークディスカッションに必要な事前・事後学習を十分に行うこと。									
教材教科書参考書	1. ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア、メディカ出版、2022(978-4-8404-7543-3) 第7版 2. ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術、メディカ出版、2022(978-4-8404-7544-0) 第2版 3. 他随時、プリント配布、参考文献を紹介する。									
留意点	演習では、各自の責任を果たしながら主体的に取り組むことが重要。グループ演習での援助においては、基礎看護学・成人看護学・老年看護学・小児看護学・精神看護学で学んだ看護技術を在宅看護に応用していくため、復習が必須である。在宅療養を支える看護の修得は在宅看護実習の必須要件である。									

科目名	家族看護学		科目ナンバリング	N-NP NI 2-37.H N	単位数 時 間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30013		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	川村泰子 中尾八重子 佐藤厚子 大瀬富士子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	複数	
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要	<p>[授業の主旨] 家族を支援するために、家族とはどのようなことをいうのか、そのあり様を学ぶ。また、家族を理解するための理論を理解し、家族に対する支援方法を学習する。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2、7に関連し、カリキュラムポリシー教育課程の3に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1. 家族が果たしている役割と多様性を理解する。 2. 家族をひとつのシステムとして捉え、家族の関係性を理解する。 3. 家族の構造、発達、機能を理解する。 4. 家族の重要性を確認し、様々な疾患や障害、家族の発達段階に応じた家族への看護援助のあり方を、事例を通じて理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容（授業時間外の学修を含む）					備考		
第1回	家族看護学とは何か 家族とは、日本の家族の変遷		家族看護学とは、授業オリエンテーション 家族看護の定義・目的および家族の対処能力について					中尾		
第2回	家族を理解する		発達する家族、家族周期、健康問題への家族の対処能力					中尾		
第3回	家族看護実践に役立つ考え方（1）		家族に健康をもたらす看護実践					佐藤		
第4回	家族看護実践に役立つ考え方（2）		看護実践を展開する					佐藤 グループワーク		
第5回	ジェノグラムとエコマップ		家族の構造を明らかにする					川村		
第6回	ジェノグラムを用いた面接		ジェノグラムから家族構造を読み取る（演習）					川村 グループワーク		
第7回	家族と病気		健康な家族とはどういう状態か、また、病は家族にどのような影響を与えるのか					大瀬		
第8回	家族内の役割・機能・レジリエンス		家族のアセスメントの方法、家族看護方法					大瀬		
評価 方法 及び 評価 基準	<p>1) 2/3以上の出席者につき、出席状況、リフレクションペーパー、定期試験等を組み合わせて総合的に評価する。 2) リフレクションペーパー：全ての授業終了後に提出することで、5点を加算する。 3) 定期試験：試験結果は満点を95%として評価する。</p>									
課題等	レポート、感想シート等は、返却しない。									
事前事 後学修	事前および事後学習として、教科書を読み、自分の興味や関心を明らかにしておくこと。									
教材 教科書 参考書	<p>・教科書：家族看護学 改訂第2版 南江堂 2021 ISBN978-4-524-25708-9 ・参考図書：宮本ふみ 無名のかたり 医学書院 ISBN4-260-00352-6 ・講義の中で、随時、参考図書を紹介する。</p>									
留意点	<p>1) 授業で紹介された文献などの自己学習による積み重ねが重要である。 2) 授業で学んだことを、日頃の学習及び社会活動に活かす。 3) ニュース等を毎日視聴し、社会で起きていることに関心を持つことが不可欠である。</p>									

科目名	公衆衛生看護学概論		科目ナンバリング	N-NP NI 2-38. H N	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N40000		30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	中尾 八重子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>[授業の主旨] 社会集団を対象とした公衆衛生看護の基本理念と目的を理解し、地域における看護職の役割と活動の根拠となる理念・法制度、健康行動やヘルスプロモーションの理論、事例等に基づき、健康課題別・健康危機管理を含む状況別の活動の特徴と内容、相談や教育などの予防的介入を基盤とした公衆衛生看護活動を学ぶ。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1、2、3、4、5、6、7に関連し、カリキュラムポリシー教育課程3、4に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健師の歴史を概観し、公衆衛生看護活動の特徴を説明できる。 2. 公衆衛生看護学の理念の健康、プライマリー・ヘルスケア、ヘルス・プロモーション、ノーマライゼーション、住民参画、住民主体の考え方を説明できる。 3. 公衆衛生の基盤である衛生行政の仕組みと公衆衛生看護活動の場・特性を記述できる。 4. 公衆衛生看護活動の対象である個人・家族・集団・コミュニティの捉え方と支援方法を説明できる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容（授業時間外の学修を含む）						備考	
第1回	公衆衛生看護とは		公衆衛生と公衆衛生看護、公衆衛生看護の理念と目的、地域看護と公衆衛生看護							
第2回	公衆衛生看護の歴史と健康課題		公衆衛生看護の始まり、保健師の種類、社会環境と健康課題							
第3回	公衆衛生看護の実践		保健師 行政 企業 学校							
第4回	公衆衛生看護活動の実際		課題：市町村における保健師活動と対象（レポート）						グループワーク ディスカッション	
第5回	公衆衛生看護活動とは		保健指導 公衆衛生看護技術							
第6回	公衆衛生看護の基本となる概念(1)		健康の考え方、プライマリー・ヘルスケア、ヘルスプロモーション							
第7回	公衆衛生看護の基本となる概念(2)		公共性、エンパワメント、協働、地域看護と公衆衛生看護							
第8回	公衆衛生看護活動の場と対象 (1) 個人・家族・コミュニティ		公衆衛生看護活動の場 公衆衛生看護活動の対象							
第9回	公衆衛生看護活動の場と対象 (2) 対象の把握		家庭訪問・健康相談・健康教育の対象者の発見方法 VTR～新しい地域看護の展開～							
第10回	公衆衛生看護活動の場と対象 (3) 地域ケアシステム		連携とは ネットワークとは ネットワーク形成 システムとは システムづくり							
第11回	公衆衛生看護活動の場と対象 (4) 特定の健康課題		感染症対策から健康づくりへの変遷 社会の発展と人々のライフスタイルの変化							
第12回	公衆衛生看護活動の展開方法 (1) コミュニティ・アセスメント		コミュニティとは アセスメントの考え方と展開方法 既存資料の収集と分析							
第13回	公衆衛生看護活動の展開方法 (2) 計画・実践・評価		保健計画の目的 保健計画の立案、実施、評価のマネージメントサイクル							
第14回	公衆衛生看護活動の展開方法 (3) 健康相談・家庭訪問		健康相談と家庭訪問の考え方 健康相談および家庭訪問の関係法規、目的、対象							
第15回	公衆衛生看護活動の展開方法 (4) 健康教育・組織活動		健康教育の目的、展開プロセス、地域の組織活動と支援							
評価方法及び評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1) 2/3以上の出席者につき、授業の参加状況、課題、定期試験等から総合的に評価。 2) 授業参加状況：10% 3) 課題：10% 4) 定期試験：80% 									
課題等	レポートおよび感想シートなどは、返却しない。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、読むことを勧める。									
教材教科書参考書	教科書：公衆衛生看護学概論第6版 医学書院 2022 ISBN978-4-260-04707-4 参考図書：国民衛生の動向 2022/2023									
留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業で紹介された文献などは、自己学習が重要である。 2) 授業で学んだことを、日頃の学習及び社会活動に活かすことが大切である。 3) ニュース等を毎日視聴し、社会で起きていることに興味を持つことが不可欠である。 4) コロナ関連のニュースは、必ず視聴し、暮らしの場でどのようなことが起きているのかを把握する。 									

科目名	公衆衛生看護方法論		科目ナンバリング	N-NP NI 2-42. H N	単位数 時 間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N40005		30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	中 尾 八重子、川村 泰子 (実務経験のある教員)				授業 形態	演習	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>[授業の主旨] 地域で暮らす人々の、健康と生活を支援するための看護の展開方法と技術を習得する。個人・家族・集団に対する支援活動を展開するための基本的な技術である「保健指導」「家庭訪問」「地域組織活動・グループ支援」について、理念・理論、及び方法と技術を学習する。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの4、6に関連し、カリキュラムポリシー教育方法の2、3に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 地域集団を対象に展開する保健指導・家庭訪問・地域組織活動／グループ支援の目的および特徴を記述できる。 2. 保健指導・家庭訪問・地域組織活動／グループ支援の展開方法を説明できる。 3. 個人・家族の健康課題に対する支援計画立案およびそれに基づいた支援を展開できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容（授業時間外の学修を含む）						備 考	
第1回	保健指導で活用できる理論・考え方		行動変容とは 変化ステージ理論、ナッジ理論、ヘルスリテラシー、自己効力感							
第2回	保健指導の展開(1)		保健指導の主な技術 公衆衛生看護活動における健康相談 (DVD)							
第3回	保健指導の展開(2)		健康相談（目的、対象、特徴、種類、展開方法）倫理的配慮							
第4回	保健指導の展開(3)		特定保健指導 病態理解と生活 動機付け							
第5回	家庭訪問(1)		保健師による家庭訪問の目的、特徴、方法、家庭訪問の展開とコミュニケーション技術 (DVD)							
第6回	家庭訪問(2)		演習：（事例）理解と家庭訪問計画立案						グループワーク	
第7回	家庭訪問(3)		演習：計画に基づいた実施（シナリオ、役割分担）						グループワーク	
第8回	地域組織活動・グループ支援(1)		地域組織活動・自主グループの展開方法 公衆衛生看護活動における地域組織活動・自主グループ (DVD)							
第9回	地域組織活動・グループ支援(2)		ファシリテーション ファシリテーター 演習：ファシリテーター、観察者						ディスカッション	
第10回	地域組織活動・グループ支援(3)		演習：役割交代 ファシリテーター、観察者						ディスカッション	
第11回	家庭訪問(4)		演習：ロールプレイ						プレゼンテーション 中尾・川村	
第12回	家庭訪問(5)		演習：ロールプレイ 評価・まとめ						プレゼンテーション 中尾・川村	
第13回	地域組織活動・グループ支援(4)		課題：地域組織・地域の活動グループのリサーチ						レポート	
第14回	地域組織活動・グループ支援(5)		演習：リサーチした組織・グループの活動目的やメンバー						グループワーク	
第15回	地域組織活動・グループ支援(6)		課題：地域組織・地域の活動グループへの支援と活用						レポート	
評価方法及び評価基準	<p>1) 2/3以上の出席者につき、授業の参加状況、演習（家庭訪問）、課題（レポート）、小テスト等から総合的に評価。 2) 授業の参加状況：10% 3) 演習：40% 4) 課題：20% 5) 小テスト：30%</p>									
課題等	感想シートなどは、返却しない。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、読むことを勧める。									
教材教科書参考書	<p>・教科書：公衆衛生看護技術第5版 医学書院 2023 ISBN978-4-260-05002-9 ・参考図書：宮本ふみ 無名の語り 医学書院 ISBN4-260-00352-6 ・随時、資料の配布や参考図書を紹介する。</p>									
留意点	<p>1) 授業で紹介された文献、国民衛生の動向、保健医療福祉行政に関するニュースなど、自己学習が重要である。 2) 授業形態が複数であるため、日程および担当者の変更の可能性があるため、掲示に注意すること。 3) 複数の科目で学んだことを、関連付けながら理解を深める。</p>									

科目名	健康教育論（理論・実践）		科目ナンバリング	N-NP NI 2-40. H N	単位数 時 間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N40006		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	中尾 八重子 川村 泰子 （実務経験のある教員）			授業 形態	講義	複数	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>[授業の主旨] 地域で暮らす人々の健康と生活を支援するための看護の展開方法と技術を習得する。個人・家族・集団に対する支援活動を展開するための基本的な技術である「健康教育」について、理念・理論、及び方法と技術を学習する。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2、3、4、6に関連し、カリキュラムポリシー教育課程の3に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域集団を対象に展開する健康教育の考え方を説明できる。 2. 健康な人々を対象とした健康教育の展開方法と技術を説明できる。 3. 健康教育の目標を達成できるような教育媒体を作成できる。集団を対象とした健康教育の方法を展開できる。 4. 小集団を対象とした健康教育を実施できる 									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容（授業時間外の学修を含む）						備考	
第1回	健康教育とヘルスプロモーション		(DVD) 公衆衛生看護活動における健康教育 ・健康教育の理念、変遷、方法							
第2回	健康教育の展開		健康教育の準備、実施、評価、自立支援・組織化への支援							
第3回	健康教育に用いる基礎理論		プリシード・プロシードモデル						ディスカッション	
第4回	健康教育の技術		学習と教育、教育技術、媒体							
第5回	健康教育の実際（1）		演習：企画書の作成						グループワーク	
第6回	健康教育の実際（2）		演習：指導案、媒体の作成						グループワーク	
第7回	健康教育の実際（3）		演習：小集団への健康教育（実施）						プレゼンテーション 中尾・川村	
第8回	健康教育の実際（4）		演習：小集団への健康教育（実施） 振り返りとまとめ						プレゼンテーション 中尾・川村	
評価方法及び評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1) 2/3以上の出席者につき、授業の参加状況、演習、定期試験等から総合的に評価。 2) 授業の参加状況：10% 3) 演習：グループワークへの取り組みと内容 発表 40% 4) 定期試験：50% 									
課題等	感想シートなどは、返却しない。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、読むことをお勧めする。									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書：公衆衛生看護技術 第5版 医学書院 2023 ISBN978-4-260-05002-9 ・随時、資料の配布や参考図書を紹介する。 									
留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業で紹介された文献などの、自己学習が重要である。 2) 授業で学んだことを、日頃の学習及び社会活動に活かすことも大切である。 3) ニュース等を毎日視聴し、社会で起きていることに興味を持つことが不可欠である。とりわけ、コロナ関連のニュースは、必ず視聴し、動向を把握する。 									

科目名	コミュニティ活動展開論 (地域診断)		科目ナンバリング	N-NP NI 2-41. H N	単位数 時 間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N40007		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	川村 泰子・中尾八重子 (実務経験のある教員)				授業 形態	演習	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>[授業の主旨] 地域で暮らす人々の健康と生活を支援するための看護の展開方法と技術を習得する。個人・家族・集団に対する支援活動を展開するための基本的な技術である「地域診断」について、理念・理論、及び方法と技術を学習する。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2、4、5、6に関連し、カリキュラムポリシー教育課程の3、教育方法の2、3に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 地域診断の概念を理解できる。 2. 地域を対象とした多様な情報を収集することができる。 3. 地域集団を対象に展開するコミュニティ・アセスメントの方法を理解できる。 4. 地域診断を通して地域の健康課題を明らかにすることができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容（授業時間外の学修を含む）						備考	
第1回	地域診断の概念		(DVD) 公衆衛生看護活動における地域診断 (37分) ・地域診断の定義、意義と目的、展開の基本							
第2回	地域アセスメントに活用できるモデル		コミュニティ・アズ・パートナーモデル、地域アセスメント項目							
第3回	地域アセスメントの過程		情報の収集方法とアセスメント、健康課題の特定、優先順位の判断							
第4回	地域診断の方法		エスノグラフィー、地区視診							
第5回	地域診断の実際（1）		地域診断の計画立案／演習						グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ディスカッション	
第6回	地域診断の実際（2）		計画に基づいた展開／演習						グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ディスカッション	
第7回	地域診断の実際（3）		計画に基づいた展開、情報の整理／演習						グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ディスカッション	
第8回	地域診断の実際（4）		情報の分析、発表						グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション	
評価方法及び評価基準	<p>1) 2/3以上の出席者につき、出席状況、リフレクションペーパー、演習、定期試験等を組み合わせて総合的に評価する。 2) リフレクションペーパー：全ての授業終了後に提出することで、5点を加算する。 3) 演習への取り組みと発表（30%）、課題レポート（15%） 3) 定期試験：50%</p>									
課題等	Teamsにより適宜指示します。 感想シートなどは、返却しない。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、読むことを勧める。									
教材教科書参考書	<p>・教科書：公衆衛生看護学概論：医学書院 2022 ISBN978-4-260-04707-4 ・随時、資料の配布や参考図書を紹介する。 ・国民衛生（福祉）の動向 2021/2022</p>									
留意点	<p>1) 授業で紹介された文献などは、自己学習が重要である。 2) 授業で学んだことを、日頃の学習及び社会活動に活かすことが大切である。 3) ニュース等を毎日視聴し、社会で起きていることに興味を持つことが不可欠である。 4) コロナ関連のニュースは、必ず視聴し、暮らしの場でどのようなことが起きているのかを把握する。</p>									

科目名	成人看護学概論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-08. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N30014		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	土屋 陽子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 ライフサイクルにおける成人期の位置づけと成人各期の特性（身体的・精神的、社会的）を全人的・総合的に学ぶ。また、成人期の健康特性及び加齢の進行に基づく生活習慣病の予防、疾病からの回復、重症化予防など健康問題を理解する。その上で、看護理論をふまえた成人への援助・支援の方法を理解し、成人看護の基本について学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2、3、4、6およびカリキュラムポリシーの3、4に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の生活と健康について説明できる。 2. 成人への看護アプローチの基本を説明できる。 3. 成人の健康レベルに対応した看護を説明できる。 4. 成人の健康生活を促すための援助方法を説明できる。 5. 変化する医療・生活環境に対応した看護を説明できる。 									
授 業 計 画										
回	主 題	授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)							備 考	
第1回	成人と生活	1. 成人（大人）とは 2. ライフサイクルからみた成人期の特徴と変化 3. 大人の生活と社会との相互作用							講義	
第2回	成人への看護アプローチの基本	1. 患者と看護師の人間関係 2. チームアプローチと看護師の役割 3. 実践における倫理的判断、意思決定支援							講義	
第3回	ヘルスプロモーションを促進する成人看護	個人、地域社会、職場におけるヘルスプロモーション							講義	
第4回	健康を脅かす要因と看護	健康バランス、生活行動がもたらす健康問題とその予防							講義 グループワーク	
第5回	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護	急激な健康破綻をきたす状態、急激な健康破綻をきたした人への看護							講義	
第6回	健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護	慢性病患者の理解、支援の基本（知識と技術、自己効力、エンパワメント）							講義	
第7回	終末期にある人を支える看護	終末期医療の現状、終末期にある人への看護							講義	
第8回	新たな治療法、先端医療と看護	新たな治療法・医療処置の開発・普及、新たな治療法・医療処置を受ける患者・家族への看護							講義	
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席を以って評価の対象とする。 筆記試験(80%) 課題レポート(20%)									
課題等	採点後の課題レポートは返却しない。									
事前事後課題	各授業内容に関連する教科書の該当項目を読むこと。 準備学習時間の目安：1日あたり30分程度									
教材教科書参考書	教科書：小松浩子他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 (ISBN978-4-260-0373-8) 随時、プリント配布、参考文献を紹介する。									
留意点	各種メディアで報道される健康関連問題、最新の医療について感心を持ち、看護の役割について考えて下さい。									

科目名	成人看護学 I		科目ナンバリング	N-NP NP 2-09. H N	単位数	1 単位	対象 学年	2 年	開講 学期	前期
区分	看護実践科目	必修	科目コード	N30015	時 間	30 時間				
	アクティブラーニング	有	担当者名	井澤 美樹子(実務経験のある教員) 土屋 陽子(実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>慢性の病いをもつクライアントは、病気とうまくつきあっていくことが求められる。生活の主体者であるクライアントのセルフマネジメント支援を基盤として、成人期にある慢性的な健康問題を抱える人と家族が、病状を管理し日常生活を構築するための援助方法を学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>デプロマポリシーの1, 2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシー3, 7, 8, 9に関連している。</p>									
到達目標	<p>①セルフマネジメントが必要な状況にある慢性疾患の病態・症状・治療法を理解し、看護に結びつけて説明できる。</p> <p>②慢性病とともに生きる成人の身体・心・社会関係に与える影響を理解し、療養法を生活に取り入れ実践していくための看護援助を理解できる。</p> <p>③理論・モデルを活用して慢性病のある人とその家族を包括的な視点から理解し、エビデンスに基づいた看護を展開できる。</p> <p>④慢性病患者の援助に必要な看護技術について、患者一看護師役割を体験する演習を通して習得する。</p> <p>⑤アクティブラーニングをベースに、グループワークを通して主体的・多角的な視点を養う。</p>									
回	主 題		授業内容					備考・課題等		
第1回	慢性病のある人とその家族の理解		慢性病と慢性疾患 慢性病のある人とその家族の特徴					「生活習慣を変えよう!チャレンジ」レポート①		
第2回	慢性病のある人とその家族の援助		慢性病のある人とその家族のセルフマネジメント支援に必要な概念							
第3回	2型糖尿病のある人のセルフマネジメントを支える看護		2型糖尿病のある人の理解					事例1 (2型糖尿病のある人と家族)		
第4回			自己血糖測定・インスリン自己注射・食事療法が必要な人のセルフマネジメントを支える看護							
第5回			2型糖尿病のある人の看護過程を展開する(グループワーク)							
第6回			2型糖尿病のある人の看護過程を展開する(グループワーク)							
第7回	慢性腎臓病のある人 維持血液透析が必要な人の セルフマネジメントを支える看護		慢性腎臓病のある人・維持血液透析が必要な人の理解					事例2 (慢性腎臓病により維持血液透析が必要になった人と家族)		
第8回			維持血液透析が必要な人のセルフマネジメントを支える看護							
第9回			維持血液透析が必要な人の看護過程を展開する(グループワーク)							
第10回	慢性心不全のある人の セルフマネジメントを支える看護		慢性心不全のある人の理解					事例3 (慢性心不全のある人と家族)		
第11回			慢性心不全のある人のセルフマネジメントを支える看護							
第12回			慢性心不全のある人の看護過程を展開する(グループワーク)							
第13回	慢性呼吸不全のある人の セルフマネジメントを支える看護		慢性呼吸不全のある人の理解と看護					事例4 (慢性呼吸不全のある人)		
第14回			慢性呼吸不全のある人のセルフマネジメントを支える看護(グループワーク)							
第15回	セルフマネジメントを支える看護とは		実施の体験を通して、セルフマネジメントを支える看護を深く考える。 学びのレポート 「テーマ:生活者としての慢性病のある人が、自分らしく生きることに向う看護とは」					テーマに沿った学びのレポート②		
評価方法及び評価基準	以下の内容から総合的に評価します。 ・前後の小テスト10% ・レポート10% ・定期試験80%									
課題等	事例を分析するために必要な知識は、主体的に学習してください。 第1・2回には、「生活習慣を変えよう!チャレンジ」レポートを持参してください。(内容は3月末に掲示します)									
事前事後学修	現場に近い状況を設定した事例を活用し、看護過程を展開しながら講義が進みます。事前に事例を分析をして講義に臨んで下さい。各単元の前後で小テストを行い、目標到達度を確認します。 準備学習時間の目安: 30分以上									
教科書参考書	〈教科書〉鈴木久美、旗持知恵子、佐藤直美:成人看護学 慢性期看護 改定第3版 南江堂 ISBN: 978-4-524-24198-9 〈参考書〉安酸史子、鈴木純恵、吉田澄恵:成人看護学(3) セルフマネジメント 第3版 ナーシング・グラフィカ 日本糖尿病学会編著:糖尿病食事療法のための食品交換表第7版 文光堂									
留意点	「教えてもらう」という受動的な姿勢では目標到達はできません。主体的・能動的な姿勢を求めます。									

科目名	成人看護学Ⅱ		科目ナンバリング	N-NP NP 2-10. H N	単位数	1 単位	対象 学年	2 年	開講 学期	前期
	看護実践科目	必修	科目コード	N30016	時 間	3 0 時間				
区分	看護実践科目	有	担当者名	土屋 陽子(実務経験のある教員) 井澤 美樹子(実務経験のある教員)			授業 形態	講義	複数	
授業の 概要等	<p>【授業の主旨】</p> <ul style="list-style-type: none"> 慢性の病いをもつ人とその家族は、その人の病いの始まりの時期から終末期まで、生涯をとらえて病いとうまくつきあっていくことが求められる。生活の主体者である人へのセルフマネジメント支援を基盤として、成人期にある慢性的な健康問題を抱える人と家族が、病気を管理し日常生活を構築するための援助方法を学ぶ。 生活機能障害をもち生活の再構築に直面した人とその家族の健康を、生命・生活・人生の観点からとらえ、人間の尊厳と可能性に焦点を合わせて、患者の自律を目指した看護を理解できる。 <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2.3.4.5.6に関連し、カリキュラムポリシーの4.6に関連する。</p>									
到達 目標	<p>①セルフマネジメントが必要な状況にある病いだけでなく、セルフマネジメントが及ばない状況もある病いをもつ人のさまざまな慢性疾患について病態・症状・治療法を理解し、看護に結びつけて説明できる。</p> <p>②慢性の病いとともにも生きる成人の身体・心・社会関係に与える影響を理解し、療養法を生活に取り入れ実践していくための看護援助を理解できる。</p> <p>③理論・モデルを活用して慢性の病いをもつ人とその家族を包括的な視点から理解し、エビデンスに基づいた看護を展開できる。</p> <p>④慢性の病いをもつ人への援助に必要な看護について、看護過程の展開を通して習得する。</p> <p>⑤リハビリテーションの概念、回復期リハビリテーション看護の専門性を理解できる。</p>									
回	主 題			授業内容				備考・課題等		
第1回	慢性の病い（生活習慣病とは限らず）をもつ人とその家族の理解			慢性病と慢性疾患 慢性病のある人とその家族の特徴						
第2回	慢性の病い（生活習慣病とは限らず）をもつ人とその家族の援助			生活習慣病に限らない慢性の病いをもつ人とその家族の支援に必要な援助						
第3回	消化器系の障害のある人の看護①			肝硬変のある人の理解（病態・治療・アセスメント）				消化器系の障害のある人の看護過程の展開をグループワークで行う。		
第4回	消化器系の障害のある人の看護②			肝硬変のある人の看護（全体像・計画・実施）						
第5回	消化器系の障害のある人の看護③			炎症性腸疾患（IBD）のある人の理解（病態・治療・アセスメント）						
第6回	消化器系の障害のある人の看護④			炎症性腸疾患（IBD）のある人の看護（全体像・計画・実施）						
第7回	免疫系の障害がある人の看護①			自己免疫疾患（全身性エリテマトーデス：SLE）のある人の理解と看護						
第8回	免疫系の障害がある人の看護②			自己免疫疾患（関節リウマチ：RA）のある人の理解と看護						
第9回	脳・神経系の障害のある人の看護①			多発性硬化症（MS）のある人の理解と看護（病態・治療・看護）						
第10回	脳・神経系の障害のある人の看護②			筋萎縮性側索硬化症（ALS）のある人とその家族の理解と看護（病態・アセスメント・看護）						
第11回	筋ジストロフィー症をもつ人の看護			筋ジストロフィー症をもつ人の理解と看護（病態・アセスメント・看護）						
第12回	回復期リハビリテーション看護①			リハビリテーション、リハビリテーション看護の定義 生活機能障害のある人の体験世界				脳梗塞事例の看護過程の展開		
第13回	回復期リハビリテーション看護②			リハビリテーション看護の専門性を理解するための概念と理論						
第14回	化学療法を受ける人への看護①			化学療法の基礎知識、化学療法を受ける人の特徴						
第15回	化学療法を受ける人への看護②			化学療法を受ける人への援助						
評価 方法 及び 評価 基準	以下の内容から総合的に評価します。 小テスト・課題：30%、定期試験：70%									
課題等	第3回目以降の講義に関連する「患者の体験記（コラム：患者を生きる）等」を事前に配布するので、講義の前にあらかじめ読んで、病いをもって生きる人の生活について想像できるよう事前学習をして講義にのぞんでください。									
事前事後 学修	準備学習時間の目安：30分以上									
教材 教科書 参考書	<p>〈教科書〉鈴木久美、旗持知恵子、佐藤直美：成人看護学 慢性期看護 改定第3版 南江堂（ISBN978-4-524-24198-9）</p> <p>酒井郁子、金城利雄：リハビリテーション看護 障害のある人の可能性とともに歩む 改訂第3版 南江堂（ISBN978-4-524-24629-8）</p> <p>〈参考書〉安酸史子、鈴木純恵、吉田澄恵：成人看護学(3) セルフマネジメント 第3版 ナーシング・グラフィカ</p>									
留意点	成人看護学は範囲が広いので受動的な学習姿勢では目標到達はできません。主体的・能動的な姿勢を求めます。									

科目名	成人看護学Ⅲ		科目ナンバリング	N-NP NP 2-11. H N	単位数	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
	看護実践科目	必修	科目コード	N30017	時間	30時間				
区分	アクティブラーニング	有	担当者名	館山 光子(実務経験のある教員) 村岡 祐介(実務経験のある教員)			授業 形態	講義	複数	
授業の概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>周手術期およびクリティカルな時期にある成人期の人々と家族のニーズを理解し、患者およびその家族のQOLを高めるための看護援助と看護師の役割について学ぶ。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの3、4、6、およびカリキュラムポリシーの3に関連する。</p>									
到達目標	<p>1. 手術を受ける患者の身体的・心理的特徴をふまえ、術前・術中・術後に必要な看護を理解できる。</p> <p>2. 手術を受ける患者の情報を総合的に判断し、術後合併症の早期発見・予防・回復に向けた看護援助を説明できる。</p> <p>3. 急性病態や治療の特徴をふまえ、根拠に基づいた看護援助を理解できる。</p> <p>4. 手術および急性疾患の治療後における患者の機能変化を理解し、生活の再構築に向けた看護援助を考えることができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	急性期・周術期看護とは		急性期・周術期における患者の特徴と看護師の役割						館山	
第2回	手術中の看護		手術室看護師の役割と機能 術中合併症予防の援助						館山	
第3回	急性期治療を受ける患者の看護		集中治療を受ける患者の特徴、各種治療に伴う援助						村岡	
第4回	手術後の看護①		術後の観察とアセスメント 術後合併症予防の援助①						館山	
第5回	手術後の看護②		術後合併症予防の援助② 早期離床の援助 退院指導						館山	
第6回	手術前の看護①		術前患者の心理 術前オリエンテーション 術前準備						館山	
第7回	手術前の看護②		術前日～当日の援助 術前のアセスメント【課題①】						館山 PBL/グループワーク	
第8回	胃切除を受ける患者の看護①		術前～術後の観察とアセスメント 術後合併症予防の看護①						村岡	
第9回	胃切除を受ける患者の看護②		術後合併症予防の看護② 退院指導						村岡	
第10回	肺葉切除を受ける患者の看護①		術前～術後の観察とアセスメント 術後合併症予防の看護						館山	
第11回	肺葉切除を受ける患者の看護②		事例患者のアセスメントと看護計画の立案【課題②】						館山 PBL/グループワーク	
第12回	心筋梗塞患者の看護①		心筋梗塞の症状と治療 緊急入院～治療中の看護						館山	
第13回	心筋梗塞患者の看護②		治療後～ICUでの看護 心臓リハビリテーション						館山	
第14回	くも膜下出血患者の看護①		くも膜下出血の症状と治療 緊急入院～治療中の看護						館山	
第15回	くも膜下出血患者の看護②		治療後～ICUでの看護 後遺障害と心理・社会的問題						館山	
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者を評価対象とする。 筆記試験(70%) 課題 1・2 (30%)									
課題等	第7回【課題①】、第11回【課題②】は採点后、定期試験前に返却する。									
事前事後学修	事前に教科書の該当部分を読んでから授業に参加すること。 事前・事後学修時間の目安：1日あたり30分程度。									
教材教科書参考書	<教科書> ・林 直子、佐藤まゆみ編集：成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 改訂第3版 南江堂 ISBN 978-4-524-24163-7 <参考書> ・野島真奈美、林 直子、佐藤まゆみ、鈴木久美編集：成人看護技術 改訂第2版 南江堂 ISBN 978-4-524-25418-7									
留意点	関連の基礎科目「人体の構造Ⅰ・Ⅱ」「人体の機能Ⅰ・Ⅱ」「疾病論Ⅰ～Ⅲ」ほか、と併せて理解を深めること。									

科目名	リハビリテーション論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-13.S N	単位数	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30009	時間	15時間				
区分	看護実践科目 アクティブラーニング	選択 有	担当者名	井澤 美樹子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>生活機能障害をもち生活の再構築に直面した人とその家族の健康を、生命・生活・人生の観点からとらえ、人間の尊厳と可能性に焦点を合わせて、患者の自律を目指した看護を理解したうえで、安全・安楽な技術を修得できる。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>デプロマポリシーの1, 2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシー3, 7, 8, 9に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1. リハビリテーションの概念、回復期リハビリテーションにおける看護の専門性を理解できる。</p> <p>2. 生活機能障害がある人へとその家族の看護の実際を理解し、安全・安楽な技術を修得できる。</p> <p>3. 回復期リハビリテーションにおける多職種協働の実際を知り、必要性を説明することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	リハビリテーション看護の専門性を考える		<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション、リハビリテーション看護の定義がわかる。 ・生活機能障害のある人の体験世界を知る。 ・リハビリテーション看護の専門性を理解するための概念と理論がわかる。 					講義 課題 1		
第2回	生活機能障害の状態と看護を調べる		<ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害のアセスメントと看護 ・摂食嚥下機能障害のアセスメントと看護 ・運動機能障害のアセスメントと看護 ・言語機能障害のアセスメントと看護 					グループワーク		
第3回	生活機能障害と看護の理解		ポスターツアによる発表で、生活機能障害のある人の看護を共有し、理解を深めることができる。					グループワーク プレゼンテーション		
第4回										
第5回	リハビリテーション看護の実際 まとめ		<ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中に伴う生活機能障害のある人のリハビリテーション看護の実際 ・多職種連携の実際 ・運動機能障害、嚥下障害、転倒リスク状態のある人への看護技術 					講義・演習 (ゲストスピーカー： 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師) 課題 2		
第6回										
第7回										
第8回										
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席者を評価対象とする。 定期試験 (40%) 課題 (30%) グループワークの参加度 (30%)									
課題等	グループワークを効果的に行うための課題を提示します。									
事前事後学修	ほとんどがグループワークとなります。グループワークを効果的に行うためには、個人の準備が必須です。 学習時間：1時間程度									
教材 教科書 参考書	(教科書) 酒井郁子・金城利雄：リハビリテーション看護 障害をもつ人の可能性とともに歩む 改訂第3版 南江堂 2021 ISBN 978-4-524-24629-8 (成人看護学Ⅱで購入済み)									
留意点	「教えてもらう」という受動的な姿勢では目標到達はできません。主体的・能動的な姿勢を求めます。									

科目名	緩和ケア論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-14. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30017		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	土屋 陽子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 緩和ケアの概念、緩和ケアに活用される概念について学ぶ。また、緩和ケアにおける意思決定の支援、日常生活の支援、家族への支援について理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1から7までのすべておよびカリキュラムポリシーの3、4に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和ケアの概念とその提供の場を説明できる。 2. 緩和ケアにおける倫理的問題を理解できる。 3. 緩和ケアに活用される概念を理解できる。 4. 緩和ケアにおける意思決定支援を理解できる。 5. 家族を支援するための視点と看護を説明できる。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)				備 考		
第1回	緩和ケアとは			緩和ケアの変遷と定義、緩和ケアにおけるチームアプローチ				講義		
第2回	緩和ケアにおける基盤となる概念			緩和ケアにおける意思決定の支援と倫理的問題、喪失・悲嘆のケア、スピリチュアルケア				講義		
第3回	緩和ケアの実践①			痛み・呼吸困難・悪心嘔吐・腹部膨満感のマネジメント				講義		
第4回	緩和ケアの実践②			便秘・倦怠感・浮腫・睡眠障害・不安・うつ・せん妄のマネジメント				講義・演習(ディスカッション含む)		
第5回	看取りのケア			死が近づいた人とその家族へのケア、看取りの現状				講義		
第6回	がんの事例で学ぶ緩和ケアの実際			痛みを抱えて生活する患者への継続看護の実際				講義・演習(ディスカッション含む)		
第7回	非がん疾患患者・家族への緩和ケア			がん以外の疾病をもつ患者の意思決定支援、緩和ケアの現状、家族への支援				講義		
第8回	緩和ケアの今後の展望			日本における緩和ケアの展望と課題、専門家育成の課題				講義		
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席を以って評価の対象とする。 筆記試験(80%) 課題レポート(20%)									
課題等	採点後の課題レポートは返却しない。									
事前事後課題	各授業内容に関連する教科書の該当項目を読んでくること。 準備学習時間の目安：1日あたり30分程度									
教材教科書参考書	教科書：宮下光令編 (ISBN978-4-8404-7540-2) ナーシング・グラフィカ成人看護学©緩和ケア第3版 (株)メディカ出版 2022 随時、プリント配布、参考文献を紹介する。									
留意点	各種メディアで報道されるがん医療、緩和ケア、人の死について感心を持ち、看護の役割について考えて下さい。									

科目名	老年看護学概論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-15. H N	単位数	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N30018	時間	15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	佐藤 厚子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要等	[授業の主旨] 高齢者を成熟の段階にありそれぞれ生きてきた人生や価値観が異なる人ととらえ、その多様性について身体的・心理的・社会的側面から理解する。また、高齢者を取り巻く保健医療福祉の動向や諸制度を理解し社会的な課題にも着目し学びを深め、QOLや生きがい、人権と倫理的課題についても学ぶ。これらの学習から高齢者の健康と生活を支援するための看護のあり方を考える。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4, 5, 6に関連し、カリキュラムポリシーの3, 5, 6, 8, 9に関連している。									
	到達 目標	1. 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる。 2. 高齢社会の特徴と高齢者の生活状況が理解できる。 3. 高齢者を取り巻く環境が理解できる。 4. 高齢者に関連した保健・医療・福祉制度の現状と課題について理解できる。 5. 高齢者を尊重したかわり、倫理的課題について理解できる。 6. その人らしい生活を継続するための方法と重要性が理解できる。								
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	老いを生きる			健康とはなにか、老いを生きる人の特徴、老年期の発達課題				レポート		
第2回	超高齢社会の概要			超高齢社会の統計的輪郭						
第3回	超高齢社会と社会保障			超高齢社会における保健医療福祉の動向、介護保険制度						
第4回	超高齢社会における権利擁護と倫理的課題			高齢者虐待、身体拘束、権利擁護のための制度						
第5回	老年看護のなりたち			老年看護の基盤、老年看護の役割、老年看護における理論・概念						
第6回	高齢者のヘルスアセスメント			ヘルスアセスメントの基本、①身体に加齢と変化へのアセスメント				グループワーク		
第7回	高齢者のヘルスアセスメント			②身体に加齢と変化へのアセスメント				グループワーク		
第8回	その人らしい生活を継続するために			サクセスフルエイジングと平衡老化、老年看護に携わる者の責務				ディスカッション レポート		
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価 方法 及び 評価 基準	定期試験（80%）、演習レポート（15%）、参加状況（5%）により評価する。 グループワーク評価はルーブリックを採用します。									
課題等	レポートはコメントして返却、グループ発表に対して講評を行う。									
事前 事後 学習	主題は教科書の章や節に該当します。講義前に教科書での事前学習をすることが望ましい。 事後学習は、授業時間内に配布したレジュメと教科書を使用し復習する。									
教材 教科書 参考書	【教科書】系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学 第9版 医学書院 ISBN 978-4-260-03186-8 【その他】必要なプリントは講義時に配布する									
留意点	老いを生きるとは、どのようなことなのでしょう。老いても自分らしく生きるために何が大切なのでしょう。日ごろから新聞やニュースなど見て考えましょう。状況によりteamsによる双方向的な形態を採用します。									

科目名	老年看護方法論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-16. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
	看護実践科目	必修	科目コード	N30019		30時間				
区分	アクティブラーニング	有	担当者名	佐藤 厚子、小野 綾 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	複数	
授業の概要等	[授業の主旨] 老年看護学概論での学びを踏まえ、高齢者の加齢によって健康生活にどのように影響を及ぼすのかを学習する。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連する。 カリキュラムポリシーの3,6,8に関連する。									
到達目標	1. 加齢によって生じる高齢者の心身への影響、日常生活への影響を理解できる。 2. 症状のある高齢者が置かれている精神的・身体的そして生活（家庭）環境を理解できる。 3. 高齢者の健康維持・増進するための看護の役割について理解できる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	高齢者の生活機能アセスメント		・基本動作とADL評価					PBL 終了後課題あり		
第2回			・高齢者のフィジカルアセスメント・CGA					PBL 提出課題あり		
第3回			・老年症候群と廃用症候群 ・フレイル					PBL 終了後課題あり		
第4回			・骨粗鬆症と転倒・転倒予防対策					PBL 終了後課題あり		
第5回			・高齢者の運動機能とリハビリテーション							
第6回			・栄養と食事、口腔ケア					PBL 終了後課題あり		
第7回	症状のある高齢者のアセスメント		・脱水・浮腫							
第8回			・疼痛・掻痒感							
第9回			・褥瘡（講義と学内演習）					PBL 提出課題あり		
第10回			・高齢者のうつ、自殺 ・高齢者のせん妄							
第11回			・認知症（講義と学内演習）							
第12回			・認知症（講義と学内演習）					PBL 終了後課題あり		
第13回			・認知症（講義と学内演習）							
第14回	高齢者のリスクマネジメント		・医療安全と救急救命							
第15回	地域における高齢者		・介護予防 ・地域包括ケア、家族支援							
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席を以って評価の対象とします。 試験80%、レポート課題20%									
課題等	レポートは必ず提出してください。提出されたレポートは採点后に指導とともに返却を行います。									
事前事後学修	自己予習が行われることを前提として授業を行います。必ず予習を行い授業に臨んでください。									
教材教科書参考書	【教科書】 1. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子(著者代表)、医学書院 (ISBN 9784260031868) 2. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論」鳥羽研二(著者代表)、医学書院 (ISBN 9784260031721) 3. 「根拠と事故防止からみた老年看護技術」亀井智子(編集)、医学書院 (ISBN 9784260043267) 4. 人体の構造、人体の機能で使用した教科書									
留意点	状況によりteamsによる双方向的な形態を採用します。全出席を望みます。									

科目名	小児看護学概論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-18. H N	単位数	1単位	対象学年	2年	開講学期	前期
			科目コード	N30021	時間	15時間				
区分	看護実践科目 アクティブラーニング	必修 有	担当者名	齋藤 美紀子 (実務経験のある教員)			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>小児の成長・発達の特徴、小児と家族の関係、望ましい成育環境、小児をとりまく社会環境等を学び、小児看護の基本となる概念と支援について理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシー3 「専門的知識と技能を取得し、エビデンスに基づいた基礎的看護を実践する能力を身につけている」に関連するカリキュラムポリシー4に関連する</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の目的、対象、役割、活動分野の概要が説明できる。 2. 小児の権利を尊重した看護について説明できる。 3. 小児と家族を取り巻く社会環境とその影響について説明できる。 4. 小児と家族を支援するための法律や施策について説明できる。 5. 小児各期の標準的な成長・発達と過程について述べるができる。 6. 小児各期における生活の特徴と健康課題について述べるができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	小児看護の対象と小児看護の目的 小児と家族の諸統計			①小児看護の対象、目的、役割 ②人口動態統計データから小児の出生率、死亡率、死亡原因等 【復習課題】ブリーフレポート (Teamsによる提出)				バズセッション		
第2回	小児看護における倫理と子どもの権利			小児看護の歴史と変遷、子どもの人権と小児看護における倫理						
第3回	小児看護における理論と成長発達			①小児看護で活用される理論 ②小児の成長発達の一般的原則と特徴、および評価の方法 【復習課題】事例に基づく理論と成長発達評価のワーク						
第4回	小児と家族／小児と家族の健康を守る法律と施策			①小児と家族の相互関係および家族の現状と課題 ②小児と家族の健康を守る法律と施策 【課題】第8回のグループディスカッションに向けて資料の準備をする				バズセッション		
第4回	小児の発達段階(1) 新生児・乳児			新生児・乳児の身体的特徴と日常生活および健康課題 【事前課題】教科書および授業資料による学習とワークの実施				TBL		
第5回	小児の発達段階(2) 幼児			幼児期の身体的・心理的特徴と日常生活および健康課題 【事前課題】教科書および授業資料による学習とワークの実施				TBL		
第6回	小児の発達段階(3) 学童・思春期			学童期・思春期の身体的・心理的特徴と日常生活および健康課題 【事前課題】教科書および授業資料による学習とワークの実施				TBL		
第8回	小児と家族に関する社会の現状と課題			子どもと家族を取り巻く現在の課題に関するディスカッションと発表 【事前課題】第4回授業終了後にグループ分けを行い、子どもを取り巻く現在の課題のうちどれか一つを選んで定義、現状、対策等について下調べをしてまとめておく				グループディスカッションとプレゼンテーション		
評価方法及び評価基準	筆記試験、複数の課題レポート、授業参加態度から総合的に評価し、60点以上を合格とする。 筆記試験70%、課題レポート20%、授業参加態度を10%とする。 筆記試験は到達目標1～6を網羅した問題とする。課題レポートは様式および論理性と内容の適切さを評価する。授業参加態度は指示された提出物の提出状況と取り組みから評価する。									
課題等	オンライン授業アプリにより適宜指示する。レポート課題は原則オンライン授業アプリにより提出する。									
事前事後学修	事前学修：授業主題に相当する部分の教科書を読み、内容を理解する。事後学修：各自講義内容のノート整理を行う。 事前事後学修には合わせて1時間以上の時間が必要。									
教材教科書参考書	教科書：「系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学①小児看護学概論・小児臨床看護総論」(医学書院) ISBN 978-4-260-03860-7 参考書：授業中に適宜紹介 その他、資料配付やVTR等の教材を使用する。									
留意点	内容が多いので予習・復習をしっかりと行って授業に参加して下さい。毎回出席記録表を提出してもらいます。 TBLのワークではPCを使用して行う予定です。									

科目名	小児看護方法論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-19.H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30022		30時間				
区分	看護実践科目 アクティブラーニング	必修 無	担当者名	齊 藤 史 恵 木 田 優 子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕 子どもの疾病や障害の状況に適した看護が実践できるための知識と方法を学ぶ。子どもの入院環境、健康障害や入院が子どもや家族に及ぼす影響、症状を示す子どものアセスメントと援助方法などを理解する。小児の発達については、小児の遊びを考えながら学びを深めていく。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシー2, 4, 5 カリキュラムポリシー3に関連している</p>									
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成長・発達をふまえながら特徴を理解できる 2. 疾病が子どもと家族に及ぼす影響を理解できる 3. 子どもの疾患に多く見られる症状および看護について説明できる 4. 疾病の経過に伴う子どもと家族の看護について子どもの発達をとらえながら説明できる 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	オリエンテーション 病気・障害を持つ子どもと家族の看護		病気・障害に対する子どもの反応、病気・治療に伴うストレス 子どもの病気・障害に対する家族の反応 (以降、毎授業において、小児の発達)						レポート(健康問題 と看護)	
第2回	慢性期にある子どもと家族の看護		慢性疾患とは、慢性期の子どもと家族の課題、慢性期の子どもと家族の支援						DVD視聴	
第3回	急性期・周手術期の子どもの看護		急性疾患とは、急性期の子どもと家族の特徴と看護、周手術期の子どもと家族の看護						レポート(小児の フィジカルアセス メント①、②)	
第4回	終末期の子どもと家族の看護		終末期とは、子どもへのケア、家族へのケア						DVD視聴	
第5回	子どもの状況(環境)に 特徴づけられる看護(1)		検査・処置について、子どもにとっての検査・処置体験とは 外来看護について、子どもの入院環境							
第6回	子どもの状況(環境)に 特徴づけられる看護(2)		在宅療養中の子どもと家族の看護、医療的ケアについて 災害時の子どもと家族の看護						DVD視聴	
第7回	臨床看護方法①/ 情報収集とアセスメント		コミュニケーション、ヘルスアセスメント、栄養・排泄・活動							
第8回	臨床看護方法②/ バイタルサイン測定		バイタルサイン測定、身体計測							
第9回 (木田)	症状を示す子どもの看護(1)		不機嫌・啼泣、痛み							
第10回	症状を示す子どもの看護(2)		呼吸困難、チアノーゼ、ショック							
第11回	症状を示す子どもの看護(3)		発熱、嘔吐・下痢・便秘、脱水・浮腫							
第12回 (木田)	症状を示す子どもの看護(4)		貧血、出血、黄疸						レポート(小児の 発達に応じた遊 び)	
第13回	症状を示す子どもの看護(5) 臨床看護方法③/ 与薬の援助		けいれん、発疹、子どもの与薬：経口、坐薬、点滴						ビデオ視聴	
第14回	障害のある子どもと家族の看護 子どもの虐待		障害のとらえ方、障害のある子どもと家族の特徴、支援 子どもの虐待について						課題：発達段階 おもちゃ作成	
第15回	低出生体重児の看護 学習内容の確認とまとめ		低出生体重児と家族の看護 小児の発達段階別遊び発表会							
評価方法 及び 評価基準	毎回の授業後のミニテスト・筆記試験・課題・レポート(ルーブリック等の評価)・受講態度を総合的に評価し、60点以上を合格とする。評価割合は、筆記試験90%、レポート他10%とする。提出物が提出されない場合は、評価が受けられない場合がある。									
課題等	実践に備え、利用できるような課題を作成していくため、内容が不十分な場合は再提出となる。									
事前事後 学習	事前にテキストにおいて授業内容の部分を読み、頭に入れておくこと。毎回の授業後に出されたミニテストをもとに毎回学習を繰り返すし、知識を定着させておくこと。授業と授業の間に1時間以上。									
教材 教科書 参考書	教科書：「系統看護学講座専門Ⅱ 小児看護学概論・小児看護学総論 小児看護学①」 医学書院 ISBN 978-4-260-03860-7 参考書：「系統看護学講座専門Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学②」 医学書院 ISBN 978-4-260-03860-9 「ナースとコメディカルのための小児科学」 日本小児医事出版社 ISBN 978-4-88924-256-0 「写真でわかる小児看護技術アドバンス」 インターメディカ ISBN 978-4-89996-409-4									
留意点	小児看護学概論、人体の構造と機能、疾病論の学習内容と深く関連しています。フィジカルアセスメントや症状看護については基礎看護学で学修したことを踏まえて講義を行いますので、既習得の内容を確認しながら学習を進めてください。講義の妨げとなるような行為(おしゃべり、携帯、授業中の出入り)などは許されません。授業中の居眠りは、出席とみなさない場合もありますのでご注意ください。									

科目名	母性看護学概論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-21. H N	単位数	1単位	対象学年	2年	開講学期	前期
			科目コード	N30024	時間	15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	大瀬 富士子 (実務経験のある教員)			授業形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>子どもを産み育て、親になる過程、家族を形成する時期、生命の継承にかかわる女性の健康について学び、リプロダクティブヘルス/ライツの理解を深め、母性看護にかかわる倫理的課題を学びます。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの1.2.7.8.9.10.12に関連し、カリキュラムポリシー6.10に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護学の基盤となる概念を説明できる 2. 女性や母子・家族を取り巻く社会の変遷と現状について説明できる 3. 親になるプロセスや家族形成、家族の発達と課題について説明できる 4. 女性のライフサイクルにおける身体的変化と健康問題について説明できる 5. 性周期、妊娠について説明できる 6. 母性看護の場で生じる倫理的課題について考察できる 7. 母性看護の場で生じる問題について考察できる 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	母性の概念①			「母性とは」何か				グループワーク		
第2回	母性の概念②			母性の概念 p2~22				プレゼンテーション・講義		
第3回	母子を取り巻く社会の変遷と現状			母性看護の変遷、統計、法律、施策 p58~97				講義		
第4回	家族とは、子育てとは			母子関係、父子関係、家族の発達段階、家族システム、母性の世代間伝達 p127~154				講義		
第5回	女性の身体のライフサイクルに応じた変化			身体発育、女性の性周期の変化、妊娠のメカニズム、胎児の性分化p100~127 子宮力				講義		
第6回	ライフステージ各期の健康問題と看護			思春期・成熟期の健康問題と看護、月経異常、更年期・老年期の健康問題と看護、性差医療、p195~250				講義		
第7回	産み育てることの生命倫理			母性看護にかかわる生命倫理総論 (各論はリプロダクティブヘルス/ライツで行う)				講義とペアワーク		
第8回	産み育てることの問題			児童虐待の実態、児童虐待防止 p308~316				講義		
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席により評価の対象となります。 グループワークの相互作用26%、 レポート課題（課題に示したテーマ）50% 授業シートのコメント24%									
課題等	レポート：母性看護学概論で学んだこと、提言したいこと。表紙をつけてA4、1枚程度。									
事前事後学修	社会で話題になっていることを調べて授業に臨んで下さい。									
教材教科書参考書	教科書： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学1 医学書院 ISBN978-4-260-04225-3 参考図書： 病気がみえるvol.10,産科,メデックメディア,2013 ISBN978-4-89632-713-7 プリンシプル産科婦人科学1,2,MEDICAL VIEW,2014 ISBN978-4-7583-1220-2C3347 * 随時、資料配付します。									
留意点	後期のリプロダクティブヘルス/ライツに続きます。									

科目名	母性看護方法論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-22. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30025		30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	大瀬 富士子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>[授業の主旨] マタニティサイクル（妊娠期・分娩期・産褥期）にある女性、胎児期・新生児期にある対象者の健康問題を総合的に捉え、正常経過の看護、異常時の看護についての基礎的知識を学ぶ。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの5.6.7.8.9に関連し、カリキュラムポリシーの6に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. マタニティサイクル（妊娠期・分娩期・産褥期）にある女性や胎児・新生児の生理・正常経過が理解できる。 2. マタニティサイクル（妊娠期・分娩期・産褥期）にある女性や胎児・新生児の異常が理解できる。 3. マタニティサイクル（妊娠期・分娩期・産褥期）にある女性や胎児・新生児の健康診査がわかる。 4. マタニティサイクル（妊娠期・分娩期・産褥期）にある女性や胎児・新生児の健康教育がわかる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容（授業時間外の学修を含む）						備 考	
第1回	妊娠期の看護①		事例紹介、マタニティ診断、妊娠の生理、胎児の発育と生理						講義	
第2回	妊娠期の看護②		妊娠の診断、分娩予定日、妊娠の時期診断、妊娠期の検査、						講義	
第3回	妊娠期の看護③		妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、切迫流早産など 妊娠期の異常の看護						講義	
第4回	妊娠期の看護④		妊婦健康診査						講義	
第5回	妊娠期の看護⑤		妊娠期の事例						講義 ペアワーク	
第6回	分娩期の看護①		分娩の生理						講義 ペアワーク	
第7回	分娩期の看護②		分娩の生理						講義 ペアワーク	
第8回	分娩期の看護③		分娩期の異常						講義	
第9回	新生児の看護①		新生児の生理						講義	
第10回	新生児の看護②		新生児の生理						講義	
第11回	新生児の看護③		新生児期の異常						講義	
第12回	産褥期の看護①		産褥期の生理						講義	
第13回	産褥期の看護①		産褥期の生理						講義	
第14回	産褥期の看護①		産褥期の異常						講義	
第15回	まとめ		母性方法論のまとめ、重要な項目確認						講義	
評価方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席により評価の対象となります。 筆記試験70% 授業シートのコメント30%									
課題等	前回の講義の重要な項目の確認小テストを行います。									
事前事後学修	講義終了後は講義資料を復習してください。									
教材 教科書 参考書	教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 ISBN978-4-260-04223-9 写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ ISBN978-4-89996-410-0 参考書：病気がみえる 産科 MEDIC MEDIA ISBN978-4-89632-713-7									
留意点	母性看護の核となる妊娠・分娩・産褥・新生児期の根拠となる理論を学び、母性看護援助論に続きます。									

科目名	次世代育成ケア論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-24. S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30041		15時間				
区分	看護実践科目	選択	担当者名	大瀬 富士子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 子どもが幸福と感じ、未来が明るくなるために私達ができることは何か。 子どもの成長・育児を理解した上で、育児の歴史的考察や、現代の育児や育児支援の諸問題をクリティカルな思考で考える。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシー 1. 2. 7. 8. 9. 10. 12に関連し、カリキュラムポリシー6. 10に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 育児の歴史的考察から諸問題を考えることができる。 2. 子どもの成長、育児を理解できる。 3. 現状をクリティカルな思考で考えることができる。 4. 育児支援のあり方を考え表現できる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)					備 考		
第1回	日本の子どもの幸福		逝きし世の面影から見る日本の子どもの幸福					講義		
第2回	初めての育児		赤ちゃんのお父さんお母さんに伝えること					グループワーク		
第3回	初めての育児		赤ちゃんのお父さんお母さんに伝えること					プレゼンテーション		
第4回	歓喜と豊穡の経験		おむつなし育児を考える					講義・ペアワーク		
第5回	地域で産む育てる		地域で産み育てる社会問題を考える					講義・グループワーク プレゼンテーション		
第6回	母乳育児		母乳育児の歴史的考察					講義		
第7回	産み育てることの変遷		産み育てることの変遷から見る育児支援					講義		
第8回	育児支援のあり方		育児支援のあり方はどうあるべきか					講義・グループワーク プレゼンテーション		
評価方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席により評価の対象となります。 グループワーク・ペアワークの相互作用、プレゼンテーション20%、 授業シートのコメント80%									
課題等	授業シートを充実させる									
事前事後学修	社会で話題になっていることに関心をもち主体的な意見をもって参加して下さい。									
教材 教科書 参考書	随時、資料配付、参考文献の紹介を行う。参考書を購入する必要はありません。									
留意点	子育てに関することに興味関心をもって臨んでください。									

科目名	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ		科目ナンバリング	N-NP NP 2-25.H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30042		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	大瀬 富士子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念と意義を基盤に、対象を理解し、セクシュアリティとジェンダー、女性の健康問題・社会的問題を歴史的・国際的視点から理解する。リプロダクティブ・ヘルス/ライツを考察し、実現できるための行動を考えることができる。 〔ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーの関連事項について〕 ディプロマポリシー-1.2.7.8.9.1p.12に関連し、カリキュラムポリシー-6.10に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念と意義を理解し問題を考えることができる。 2. セクシュアリティに関する概念、人間の性の特質、ジェンダー、性的マイノリティについて理解することができる。 3. 女性の健康問題・社会的問題を歴史的・国際的視点から理解することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	プレコンセプションヘルス		リプロダクティブヘルスのための妊娠前からの健康						講義 ペアワーク	
第2回	胎児の障がい		出生前診断、倫理的課題、意思決定を支える看護pp14~30 (②)						講義	
第3回	不妊への看護		生殖補助医療、倫理的課題、意思決定を支える看護 pp30~60 (②)						講義 ペアワーク	
第4回	性感染症と望まない妊娠を防ぐ リプロヘルスサポーターの役割		家族計画の考え方、受胎調節の原理と方法、性感染症の罹患状況と予防法、HPVワクチンを考える pp250~256 (①)、人工妊娠中絶の動向と影響pp256~282						講義 ペアワーク	
第5回	国際社会の リプロダクティブヘルス/ライツ		SDGs、難民、児童婚など世界の女性の命と健康と権利						講義	
第6回	性暴力を受けた女性へのケア		暴力被害を受けた女性の実態とケア、国際社会の現状 pp291~300 (①)						講義	
第7回	セヒューマン・クシュアリティ		概念、発達、性の分化、性の多様性、LGBTQ、ジェンダー、性行動、包括的性教育 pp20~23.117~123 (①)						講義と ペアワーク	
第8回	子宮頸がんワクチン		子宮頸がんワクチン接種を考える						講義	
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席により評価の対象となります。 ペアワークの相互作用26%、 レポート課題（課題に示したテーマ）50% 授業シートのコメント24%									
課題等	レポート：授業で学んだこと、リプロダクティブヘルス/ライツで提言したいこと 表紙をつけてA4 1枚程度。									
事前事後学修	社会で話題になっていることを調べて授業に臨んで下さい。									
教材 教科書 参考書	教科書： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学1 医学書院（前期使用） ISBN978-4-260-04225-3 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院（前期使用） ISBN978-4-260-04223-9 * 随時、資料配付、参考文献の紹介を行う。									
留意点	母性看護学概論に続く科目です。 新聞、書籍等に関心を持ち主体的な意見をもって参加すること。									

科目名	精神看護学概論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-26. H N	単位数	1単位	対象学年	2年	開講学期	前期
			科目コード	N30027	時間	15時間				
区分	看護実践科目 アクティブラーニング	必修 有	担当者名	菅原大輔 (実務経験のある教員)			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 心の問題は健康生活にとって極めて重要である。心の健康が個人の健康生活を維持するだけでなく社会に大きな影響を及ぼすこともある。心のしくみや不安と防衛機制、ストレス、幼児期から老年期に至るまでの心の発達と健康問題、そして、現代社会における精神保健活動について学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの4・7に関連し、カリキュラムポリシーの1・8に関連している。</p>									
到達目標	<p>1、心の健康についての考え方、見方、影響する因子について理解できる。 2、心の発達と健康問題について理解できる。 3、現代社会における精神保健上の主な問題について理解できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	精神障害と精神保健			わが国の精神保健上の問題について						
第2回	地域精神保健			地域ケアへの転換について リカバリーを機軸とした精神医療について						
第3回	精神の発達過程			エリクソンの漸成的発達理論、マズローの欲求5段階説など						
第4回	精神（心）の危機状況と精神保健①			危機理論について ストレスとコーピングについて						
第5回	精神（心）の危機状況と精神保健②			セルフマネジメント・アンガーマネジメント・コーチングについて						
第6回	精神（心）の構造とはたらき			意識と無意識 防衛機制について						
第7回	現代社会と精神（心）の健康			社会構造の変化と社会病理						
第8回	現代社会における精神保健活動			精神保健活動における課題について					グループワーク レポート	
評価方法及び評価基準	講義への参加度やグループワーク・レポート（20点）、定期試験（80点）を合計（100点）して評価する。									
課題等	講義の内容は下記の教科書や資料を参考に各自で振り返りを行うこと。									
事前事後学修	主題について予習し、講義内容は復習すること。 学習時間の目安：1日当たり30分以上									
教材教科書参考書	岩崎弥生／渡邊博幸：新体系、看護学全書、精神看護学概論・精神保健、メジカルフレンド社 ISBN:978-4-8392-3363-1									
留意点	心の問題に関する記事や報道に関心を持ち、最近の動向を調べましょう。									

科目名	精神看護方法論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-27. H N	単位数	1単位	対象学年	2年	開講学期	後期	
			科目コード	N30028	時間	30時間					
区分	看護実践科目	必修	担当者名	菅原大輔 (実務経験のある教員)				授業形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	有									
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>精神に障がいをもつ人々に対する看護の役割について、また、精神障がい者のコミュニケーションの特徴、精神障がい者との関係の作り方、コミュニケーション技術、精神症状のとりえ方について学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2・3・4・6に関連し、カリキュラムポリシーの3・8に関連している。</p>										
到達目標	<p>1、統合失調症および双極性障害の発病と回復の過程をイメージできる。</p> <p>2、精神看護学における看護実践の倫理的側面を理解する。</p> <p>3、精神看護の援助における対人関係の基本を理解する。</p> <p>4、治療チームにおける看護の機能と役割を理解する。</p> <p>5、クライアントの生活についての様々な困難と課題および解決方法を理解する。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容					備 考		
第1回	精神医療の歴史と法の変遷			精神医療をめぐる法の変遷について 精神保健福祉法と患者処遇のガイドラインについて							
第2回	精神症状の理解（1）			知覚の障がい、思考の障害、自我意識の障害について							
第3回	精神症状の理解（2）			感情の障害、知能の障害、記憶の障害について							
第4回	統合失調症の病態の理解			統合失調症の経過（発病前、急性期、回復期、慢性期など）および、それぞれの時期の主な特徴について							
第5回	統合失調症急性期の経過と回復過程（1）			統合失調症の発病と回復過程について 精神構造の理解					グループワーク		
第6回	統合失調症急性期の経過と回復過程（2）			回復過程の各段階における看護と具体策について					グループワーク		
第7回	精神障害の状態像および現象群			精神障害の状態別にみた具体策について					グループワーク		
第8回	双極性障害の発病と回復過程における看護の役割（1）			双極性障害の経過 うつ病エピソードと躁病エピソードについて							
第9回	双極性障害の発病と回復過程における看護の役割（2）			双極性障害の薬物療法、双極性Ⅱ型障害、非定型うつ病について							
第10回	嗜癪の理解とアディクション看護			物質関連障害および嗜癪性障害について							
第11回	認知症の治療と看護			わが国における認知症の現状 認知症の治療と看護について							
第12回	てんかんおよび身体表現性障害			てんかんの病理と看護について 身体表現性障害の病理と看護について							
第13回	パーソナリティー障害および摂食障害の治療と看護			パーソナリティー障害の概念および看護介入について 摂食障害の概念および看護介入について							
第14回	薬物療法と看護の役割（1）			抗精神病薬の作用機序について 精神科で扱う主な薬物療法について							
第15回	薬物療法と看護の役割（2）			抗精神病薬の主な副作用（麻痺性イレウス、悪性症候群、水中毒など）と看護について							
評価方法及び評価基準	講義への参加度と学習態度、グループワーク（20点）、定期試験（80点）を合計（100点）して評価する。										
課題等	講義で分かりにくい箇所は下記の教科書や資料を参考に各自で振り返りを行うこと。										
事前事後学修	疾病論Ⅱおよび精神看護学概論の資料を見直し、復習してから講義に臨むこと。また、講義内容を確認し、予習してから講義に臨んで下さい。学習時間の目安：1日あたり30分以上。										
教材教科書参考書	<p>教科書：</p> <p>岩崎弥生、渡邊博幸：新体系、看護学全書、精神看護学②、精神障害をもつ人の看護、メジカルフレンド社 ISBN:978-4-8392-3306-8</p> <p>阿保順子他：統合失調症急性期看護学、すぴか書房 ISBN:978-4-902630-30-5</p>										
留意点	精神看護援助論および精神看護学実習に連動する講義であるため自己学習を怠らないこと。										

科目名	精神科リハビリテーション論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-29. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30030		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	菅原大輔 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕 現在の精神医療は長期入院を避け、地域で生活する精神障がい者が、健康で自分らしい生活を送るための支援が重要である。 講義では地域で生活する精神障がい者を中心に援助方法の理解を深めて、ノーマライゼーションのための精神保健活動を学習する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2・4・6に関連し、カリキュラムポリシーの8・9に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1、精神科リハビリテーションの意味やあり方について理解できる。 2、精神障害をもつ人の地域における生活への支援について理解できる。 3、治療チームにおける看護の機能と役割を理解できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)					備 考	
第1回	精神科リハビリテーションとは			精神科リハビリテーションについて リカバリーの理念とストレングスについて						
第2回	回復段階に応じたりハビリテーション①			段階（急性期・臨界期）に応じたりハビリテーションと看護						
第3回	回復段階に応じたりハビリテーション②			段階（回復期・維持期）に応じたりハビリテーションと看護						
第4回	事例の検討			精神科リハビリテーションの事例をグループで検討する					グループワーク	
第5回	精神保健と社会復帰施設			精神保健 (mental health) について 社会復帰施設の役割						
第6回	災害時の精神看護			災害時地域精神保健医療活動と心のケアについて 災害派遣精神医療チーム (DPAT) の役割						
第7回	精神保健医療福祉			精神保健医療福祉に関する考え方 精神科デイケア・ACTなどアウトリーチの実際						
第8回	精神科領域における関連技法			作業療法・社会技能訓練・心理教育・集団療法・認知行動療法・芸術療法など						
評価 方法 及び 評価 基準	講義への参加度や学習態度・グループワーク（20点）、定期試験（80点）を合計（100点）して評価する。									
課題等	講義の内容は下記の教科書や資料を参考に各自で振り返りを行うこと。									
事前事後学修	主題について予習し、講義内容は復習すること。 学習時間の目安：1日あたり30分以上									
教材 教科書 参考書	岩崎弥生／渡邊博幸：新体系、看護学全書、精神看護学②、精神障害をもつ人の看護、メジカルフレンド社 ISBN:978-4-8392-3306-8									
留意点	講義で不明な点があれば質問して下さい。オフィスアワーも活用して下さい。									

科目名	リスクマネジメント		科目ナンバリング	N-NP NI 2-32. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30011		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	館山光子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕 看護の対象を守るために必要とされる安全管理の視点と看護師の役割について実際の事故事例から学ぶ。また、医療従事者として自分を守るために必要な知識と対策・対応の基本について学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2、3、4、5およびカリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1. 医療の場におけるリスクマネジメントの視点を理解できる。 2. 医療安全、事故防止に向けた看護師の役割について説明できる。 3. 医療事故事例から、事故要因と事故防止対策を関連付けて理解できる。 4. 医療の場で生じる状況・場面を想定した事例から、起こりうる危険を考えることができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	リスクマネジメントと看護師の役割		リスクマネジメントの視点と意義、看護師の役割						講義	
第2回	診療の補助業務に伴う医療事故①		与薬業務・医療機器の使用とリスクマネジメント						講義	
第3回	診療の補助業務に伴う医療事故②		輸液・浣腸・チューブ管理とリスクマネジメント						講義	
第4回	療養上の世話に伴う医療事故		転倒・誤嚥・入浴援助とリスクマネジメント						講義	
第5回	看護師を脅かすリスク		職業感染、放射線被ばく、抗がん剤暴露、院内暴力、他						講義	
第6回	医療現場のリスクマネジメント①		組織としての医療安全対策						講義	
第7回	医療現場のリスクマネジメント②		個人としての医療安全対策						講義	
第8回	リスク感性を高める		KYTトレーニング						グループワーク プレゼンテーション ディスカッション	
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席者を評価の対象とする。 筆記試験(70%) 課題レポート(30%)									
課題等	看護師が関与した医療事故事例を1件取り上げリスクマネジメントのあり方を考察する。									
事前事 後課題	各授業内容に関連する既習の基礎科目(人体構造・機能、薬剤・感染・各種疾病)、および基礎看護技術論・基礎看護技術演習Ⅰ・Ⅱ、等)を見直して参加すること。 事前・事後学修時間の目安:1日あたり30分程度									
教材 教科書 参考書	随時プリント配布、参考文献を紹介する。									
留意点	各種メディアで報道される医療事故について関心を持ち看護師の役割について考えてみること。									

科目名	救急看護		科目ナンバリング	N-NP NI 2-33. S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N30008		15時間				
区分	看護実践科目	選択	担当者名	館山光子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	有								
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 生命危機状態にある患者とその家族への看護を理解するため、救急看護の対象とその特徴、救命処置の基本と原則、および災害急性期における看護活動について学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1・2・3・4・6およびカリキュラムポリシーの3に関連する。</p>									
到達目標	1. 救急医療および救急看護の特殊性を理解できる。 2. 生命の危機的状況にある患者とその家族の特徴をふまえた援助のありかたについて考えることができる。 3. 一次・二次救命処置における看護師の役割を理解できる。 4. 災害急性期の特徴と看護活動を理解できる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容（授業時間外の学修を含む）					備考	
第1回	救急看護の場と特徴			救急医療システム、プレホスピタルケア、救急患者の特徴					講義	
第2回	救急・集中治療における看護活動			救急看護師の役割と活動、集中治療室での看護活動					講義	
第3回	救急患者を取り巻く倫理的課題			脳死下臓器提供を行う患者とその家族の看護					グループワーク プレゼンテーション ディスカッション	
第4回	救急患者のアセスメントと対応①			急性循環不全患者の特徴と看護①					講義	
第5回	救急患者のアセスメントと対応②			急性循環不全患者の特徴と看護②					講義	
第6回	救急患者のアセスメントと対応③			急性呼吸不全患者の特徴と看護					講義	
第7回	救命処置と看護師の役割			一次救命処置演習・二次救命処置					講義	
第8回	災害急性期の看護			災害医療の特徴、DMAT活動、トリアージ、被災者の心理的ケア					講義 PBL	
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席者を評価対象とする。 筆記試験(70%) 課題レポート(30%)									
課題等	第3回「救急患者を取り巻く倫理的課題」で提示する課題レポート。									
事前事後学修	各授業内容に関連する既習の基礎科目（人体の構造・人体の機能、等）を見直して参加すること。 事前・事後学修時間の目安：1日あたり30分程度									
教材 教科書 参考書	随時プリント配布、参考文献を紹介する。									
留意点	救急看護はフィジカルアセスメントの知識と技術を駆使して、患者の生命を守るための支援を行います。人体の構造・人体の機能・ヘルスアセスメントと関連させて学習します。また、幅広い疾患が対象となりますので、疾病論の内容とも併せて理解を深めて下さい。									

科目名	基礎看護学実習 I		科目ナンバリング	N-NP CT 2-48. H N	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期集中
			科目コード	N31001	時間	45時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	阿部 智美、幸山 靖子 松坂 朋佳、村上 翔太郎 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	複数	
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>看護実践の見学・参加および受け持ち患者の日常生活の援助体験を通して、患者、患者の入院環境、日常生活の援助技術および患者・看護師関係の成立の実際を学び、看護実践に必要な基礎的能力を養うことを目指して、患者を受け持つて行う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1～7に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の療養環境を知る。 2. 患者とのコミュニケーション、人間関係の成立について理解を深める。 3. 患者に必要な日常生活の援助を理解できる。 4. 将来、看護職者となるための看護観と態度を養う。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	実習オリエンテーション			実習の概要、目的・目標、方法、実習病院の概要の説明、留意事項の説明、身だしなみの確認、事前学習、技術演習				学内		
第2回	施設オリエンテーション、看護の見学、参加、実施			病院・病棟の概要の説明と見学、受け持ち患者への挨拶、援助の見学・実施、報告、カンファレンス				各実習病院		
第3回	看護の見学、参加、実施			受け持ち患者とのコミュニケーション、援助の見学・体験、報告、カンファレンス				各実習病院		
第4回	看護の見学、参加、実施			受け持ち患者とのコミュニケーション、援助の見学・体験、報告、カンファレンス（まとめ）				各実習病院		
第5回	実習のまとめ			カンファレンス「実習における学びと目標達成度、自己の課題」、実習記録の整理、レポートの作成				学内		
評価方法及び評価基準	実習時間45時間の4/5以上の出席者に対して、基礎看護学実習 I 評価基準に基づき評価する。									
課題等	基礎看護学実習 I 要項を参照すること。									
事前事後学修	基礎看護学実習 I 要項を参照すること。									
教材教科書参考書	1年次に履修した科目に関するテキスト、参考書や資料等を活用すること。									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目の履修要件は、学生便覧を参照すること。 ・実習時は、指定のユニホームを着用し、言動・身だしなみ等について注意する。看護を学ぶ学生として、品位を保ち、倫理に反しないよう行動する。 ・実習要項を熟読し、予習・復習を十分おこなって、主体的に臨む。 ・自己の健康管理に留意し、感染予防策を徹底する。 									

科目名	基礎看護学実習Ⅱ		科目ナンバリング	N-NP CT 2-49. H N	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期集中
			科目コード	N31002	時間	90時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	幸山 靖子、阿部 智美、松坂朋佳 (実務経験のある教員)				授業 形態	実習	複数
	アクティブラーニング	有								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>入院中の患者を受け持ち、看護過程を展開して看護を実践することを通して、患者の日常生活および健康状態を把握し、受け持ち患者に応じた看護を実践する基礎的能力を養う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1～7に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者を統合体として理解し、全体像を捉える。 2. 受け持ち患者の看護過程を展開できる。 3. 日常生活の援助を適切に実践する。 4. 看護職者との医療従事者との連携について理解できる。 5. 看護職として基盤となる倫理観や看護観を培う。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	実習オリエンテーション			実習の概要、目的・目標、実習の進め方、留意事項について説明、事前学習				学内(半日)		
第2回	学内オリエンテーション			実習病院の概要、受け持ち患者の説明、学内演習(バイタルサイン測定技術等の確認)、事前学習、病院実習1日目の実習目標設定				学内(半日)		
第3回	施設オリエンテーション、受け持ち患者の看護			受け持ち患者の紹介、アセスメント、看護、カンファレンス				各実習病院		
第4回	受け持ち患者の看護			アセスメント(情報収集、解釈・分析)、看護、カンファレンス				各実習病院		
第5回	受け持ち患者のアセスメント			アセスメント(情報収集、解釈・分析)、健康上の問題(看護診断)				学内		
第6回	受け持ち患者の看護			アセスメント(情報収集、解釈・分析)、看護、中間カンファレンス				各実習病院		
第7回	看護計画の立案			看護計画の立案				学内		
第8回	受け持ち患者の看護			看護計画に基づいた看護、カンファレンス				各実習病院		
第9回	受け持ち患者の看護			看護計画に基づいた看護、最終カンファレンス				各実習病院		
第10回	実習のまとめ			最終カンファレンス(実習のまとめ)、レポートの作成				学内		
評価方法及び評価基準	実習時間90時間の4/5以上の出席者について、基礎看護学実習Ⅱ評価基準に基づき評価する。									
課題等	基礎看護学実習Ⅱ要項を参照すること。									
事前事後学修	基礎看護学実習Ⅱ要項を参照すること。									
教材教科書参考書	2年次前期までに履修した科目に関するテキスト、参考書や資料等を活用すること。									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目の履修要件については、学生便覧を参照すること。 ・実習時は、指定のユニホームを着用し、言動・身だしなみ等について注意する。看護を学ぶ学生として、品位を保ち、倫理に反しないよう行動する。 ・実習要項を熟読し、予習・復習を十分おこなって、主体的に臨む。 ・自己の健康管理に留意し、感染予防策を徹底する。 									

科目名	健康づくり実習 I		科目ナンバリング	N-NP CT 2-58.H N	単位数	1単位	対象	1年	開講	1年前期	
			科目コード	N31039	時間	45時間	学年				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	中尾八重子・大瀬富士子・佐藤厚子・川村泰子 菅原大輔・小野綾・齊藤史恵・高橋義孝 木田優子 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	複数		
	アクティブラーニング	有									
授業の概要等	〔授業の主旨〕 地域で生活する人々の多様な生活や文化を捉え、生活の実際を知る。また、社会資源は生活支援とどのようなかわりを持っているか実態を通して考える。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、2、3、5、6に関連し、カリキュラムポリシーの5、6、8に関連している。										
到達目標	1. 多様な場で展開される、人々の生活の実際を知る。 2. 地域の社会資源について知る。 3. 地域で生活する人々と、コミュニケーションができる。 4. ディスカッションやプレゼンテーションおよび記録を通して、自分の考えを表現できる。										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容				備 考			
1	オリエンテーション/計画の策定			実習オリエンテーション 計画の策定				グループワーク ディベート プレゼンテーション フィールドワーク PBL			
2	計画の修正/実習施設			計画の修正/フィールドワーク							
3	実習施設			フィールドワーク (実践)							
4	実習施設/まとめ (学内)			フィールドワーク/グループのまとめ							
5	実習報告会			グループワークとプレゼンテーション							
				※詳細については別途提示する							
評価方法及び評価基準	4/5以上の出席者につき、健康づくり実習1評価表に基づき総合的に評価をする。										
課題等	実習記録・レポートなどは、返却する。										
事前事後学修	実習で紹介する参考図書は、必ず読むことを勧める。										
教材教科書参考書	授業 (ソーシャルスキル) で提示した教材や資料等										
留意点	1) 実習生にふさわしい態度 (対人面・学習面) を心がける。 2) グループ単位の行動が多いため、メンバーシップを発揮し、主体的に行動する。										

科目名	プライマリヘルスケア実習 I		科目ナンバリング	N-NP CT 2-59.H N	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	1年前期
			科目コード	N31041	時間	45時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	土屋陽子 他 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	複数	
	アクティブラーニング	有								
授業の 概要等	〔授業の主旨〕 病を持ちながら生活調整をしている人々が、仲間と共に支え合う活動を通して、地域でどのように生活しているのかその実際を知る。看護への関心・対象理解そして自己理解が深まり、学修への動機づけとなる。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 デプロマポリシーの1, 2, 3, 4, 5, に関連し、カリキュラムポリシー3, 5に関連している。									
到達 目標	1. 生活調整・支援を必要としている人々の生活体験を聴くことができる。 2. 仲間と共に支え合う活動の実際を知ることができる。 3. 看護学を学ぶ意欲に繋げることができる。									
実習方法	数名の小グループで、病を持ちながら生活している人々の体験を聴くことや、調べ学習を通して対象理解を深める。学びをまとめ、報告会により学びを共有する。									
実習計画・内容										
回	主 題			授業内容				備考		
1	学内	実習オリエンテーション 学内演習		1) 実習オリエンテーション 2) プライマリヘルスケア実習 I の概要説明 3) 傾聴を学ぶ(演習) 4) 聴くための準備				*実習2, 3回目の地域は、1→2あるいは、2→1の順番となる。		
2, 3	地域1	施設オリエンテーション 対象へのインタビュー		1) 施設(患者会等)の特徴、留意事項等オリエンテーションを受ける。 2) コミュニケーションを通して対象者との関係を形成する。 3) (座談会形式による)グループインタビューを実施する。 4) 学生間で役割分担をして進める。						
	地域2	調べ学習		病を持ちながら生活している人の生活や共に支え合う活動について、多様な情報を通して(新聞・ブログ・手記・市内公共施設の探索・イベント参加など)、その実際を知る。						
4	学内	情報整理(実習グループ毎)		1) インタビュー内容や調べ学習の内容を実習目標に沿ってまとめる。 2) 学生間で役割分担をして進める。						
5	学内	合同報告会		1) グループごとにポスターツアーによる発表し意見交換を行う。 2) 実習目標に沿って実習の学びを共有する。						
評価 方法 及び 評価 基準	5/4以上出席することにより評価の対象とし、施設での活動・グループ活動への主体的・積極的な取り組み状況を含む実習目標達成度：40点、個人記録：30点、グループでの提出物：30点により評価する。									
課題等	個人課題・グループ課題									
事前事後学修	「体験できて良かった」で終わらず、体験を振り返り、どのような気づきがあったのか、考える時間を作ってください。									
教材 教科書 参考書	なし									
留意点	大人としてのマナーを守り、誠実な態度で実習に臨んでください。また、様々な個人情報を知ることもあります。守秘義務を心に留めて実習をして下さい。									